

若シ檢察官控訴ノ申立人又ハ對手人ナル時ハ控訴ヲ受ク可キ裁判所ノ檢察官ニ其意見書ヲ差出ス可シ

(解釋)本條ニ所謂控訴ヲ受ク可キ裁判所即チ違警罪ノ控訴ヲ受ク可キ裁判所ハ輕罪裁判所ノ謂ヒナリ

治

第三百四十一條 控訴ヲ受ク可キ裁判所ニ於テハ書記局ヨリ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ

呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

証人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

法

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百四十二條 控訴ノ對手人ハ其裁判言渡アルマテ何時ニテモ附帶ノ控訴ヲ爲スコトヲ得但附帶ノ控訴ハ公廷ニ於テ直チニ之ヲ申立ルコトヲ得

(解釋)本條ハ第二百四十九條ト同一主義ニシテ敢テ復釋ヲ要セス

第三百四十三條 控訴ニ係ル事件ハ輕罪ノ裁判ヲ爲スニ付キ定メタル規則ニ從ヒ之ヲ裁判ス可シ

檢察官其他訴訟關係人ハ裁判長ノ允許ヲ得ルニ非サレハ新ナル証人又ハ始審ニ於テ陳述シタル証人ヲ呼出スコトヲ得ス

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

治

第三百四十四條 控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ原裁判言渡ヲ認可スルノ言渡ヲ爲シ又ハ之ヲ取消シ更ニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

被告人ノミ控訴ヲ爲シタル時ハ原裁判言渡ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得ス私訴ニ付テノ控訴ノ裁判ハ通常民事ノ規則ニ從フ

(解釋)本條第二項ハ藪ヲ突テ蛇ノ出テサランカ爲メニ設ケタルモノナリ

法

第三百四十五條 第三百三十一條以下ノ規則ハ控訴ノ關席裁判ニ付テモ亦之ヲ適用ス

(解釋)本條ニ就テハ讀者自ラ第三百三十一條以下ノ諸條ヲ參看スレハ則チ足レリ

第三百四十六條 檢察官其他訴訟關係人ハ違警罪事件ノ終審ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

△參看 明治十四年九月第四拾四號布告
違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フ可シト雖モ實際已ムヲ
得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヒ其裁判言渡ニ付テハ上訴ヲ許サ
ス

(解釋)違警罪ニ就テハ終審ノ對審裁判言渡ニ對スルニ非ラサレハ上告ヲ爲スコトヲ許サス

○第三章 輕罪公判 (凡二十五條)

(解釋)本章ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百四十七條 輕罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ因テ公訴ヲ受理ス

- 一 檢察官ノ請求ニ因テ書記局ヨリ被告人ニ對シ發シタル呼出狀
- 二 豫審判事輕罪裁判所會議局又ハ上等ノ裁判所ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百四十八條 呼出狀ニ付テハ第三百二十二條第三百二十三條ノ規則ニ從フ

(解釋)本條ハ唯々讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第三百四十九條 被告事件罰金ノ刑ニ該ル可キ時ハ代人ヲテ出廷シセシムルコトヲ得可キ旨ヲ呼出狀ニ記載ス可シ

民事原告人及ヒ民事擔當人ハ代人ヲシテ出廷セシムルコトヲ得

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百五十條 証人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ一日ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

(解釋)本條モ亦敢テ解釋ヲ要セス

第三百五十一條 第四百四十四條ノ規則ハ豫審ヲ經サル輕罪事件ニモ亦之ヲ適用ス

(解釋)輕罪事件ニ就テハ必スシモ豫審ヲ經ルヲ要セサルハ第四百七條ノ規定スル所ナリ故ニ其豫審ヲ經サル輕罪事件ニ就テハ第三百二十四條ノ規則ヲ適用スルモノトス

第三百五十二條 檢察官ハ裁判長ヨリ被告人ノ氏名年齢職業住所及ヒ出生ノ地ヲ問ヒタル後被告事件ヲ陳述ス可シ民事原告人ハ被告事件ヲ証明

ス可シ

調書又ハ申立書アル時ハ書記ヲシテ之ヲ朗讀セシメ次ニ原告証人陳述ヲ聽キ且證據物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可シ
被告人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百五十三條 檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

民事原告人ハ要償ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ民事擔當人ハ更ニ答辯ヲ爲スコヲ得

(解釋)本條モ亦敢テ解釋ヲ要セス

第三百五十四條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人又ハ第二百六十九條ノ規則

ニ從ヒ闕席裁判ヲ爲スコヲ得可キ被告人其呼出ノ日時ニ出廷セサル時ハ闕席裁判ヲ爲ス可シ

(解釋)本條モ亦同シク解釋ヲ要セス

第三百五十五條 闕席裁判ニ關スル第三百三十一條ヨリ第三百三十四條

マテノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

(解釋)本條モ亦同シク解釋ヲ要セス

第三百五十六條 闕席裁判ニ因リ禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ左

ノ場合ヲ除クノ外刑ノ期滿免除ニ至ルマテ故障ヲ爲スコヲ得

一 被告人本案ノ裁判前豫メ裁判スヘキ事件ヲ申立テタル時

二 裁判言渡書ヲ本人ニ送達シタル時

三 被告人裁判執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタルノ証アル時

第一ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ第二第三ノ場合ニ於テハ言渡アリタルコトヲ知リタルヨリ三日内ニ故障ヲ爲スコヲ得

(解釋)闕席裁判ニ因リ禁錮以上ノ言渡ヲ爲シタルハ特ニ一方ノ申立ノミニ因リ答辯ナクシ

テ爲シタルモノナレハ本條列記スル三個ノ場合ヲ除クノ外刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニ

テモ故障ヲ爲スコヲ得ルモノトス其刑ノ期滿免除ニ至ルマテ限ル所以ノモノハ刑ノ期滿

免除ヲ得ルニ至レハ假令管テ刑ノ言渡アリト雖モ既ニ刑ヲ被ムルコトナキヲ以テ敢テ故障ヲ

爲スニ及ハサレハナリ

第三百五十七條 裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ新タナル証人ヲ呼出シ鑑定人ヲ命シ若クハ臨檢ヲ爲スヲ得但是等ノ處分ヲ爲スニ付テハ第三編第三章ニ定メタル規則ニ從フ

又豫審ヲ經サル事件ニ付テハ豫審判事ヲシテ其指示スル所ノ條件ニ付キ取調ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシムルヲ得

(解釋)本條ハ頗ル錯雜スルモ敢テ解釋ヲ要セス

第三百五十八條 犯罪ノ証憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ス可シ

本條ノ場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケタル時ハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百五十九條 被告事件違警罪ナル時ハ終審ノ裁判言渡ヲ爲シ且被告人拘留ヲ受ケタル時ハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)輕罪裁判所ハ違警罪事件ニ就テハ控訴ヲ受ケル所ナリ故ニ被告事件輕罪ニ非ラスシ

テ違警罪ナリト認メタル時ハ違警罪ノ刑ヲ言渡スニ於テ充分ナル權利ヲ有スルモノナレハ其言渡シタル所ノ裁判ハ則チ終審ノ裁判ナリトス是レ大ハ小ヲ兼ヌルノ理ナリ且以下敢テ

解釋ヲ要セス

治 第三百六十條 被告事件重罪ナル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲シ若シ豫審ヲ經サル時ハ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可シ但被告人拘留ヲ受ケタル時ハ拘引狀ヲ發ス可シ

訴訟書類及ヒ證據物件ハ檢察官ヨリ之ヲ豫審判事ニ送致ス可シ

(解釋)大ハ能ク小ヲ兼ヌレトモ小ハ以テ大ヲ容ル、ト能ハス故ニ其事件輕罪ニ非ラスシテ重

罪ナル時ハ之ヲ管轄スルコト能ハサルヲ以テ其管轄違ノ言渡ヲ爲ス可キモノトス而シテ重罪ハ必ス豫審ヲ要ス可キ者ナレハ若シ其重罪ナリト認メタル事件ニ於テ未タ豫審ヲ經サル時ハ豫審判事ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可キモノトス但以下及ヒ第二項ハ敢テ解釋ヲ要セス

法 第三百六十一條 被告事件豫審ヲ經タル時ハ之ヲ其裁判所ノ會議局ニ送付スルノ言渡ヲ爲ス可シ

會議局ニ於テハ第二百五十三條第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ取調ヲ爲シ

被告人ヲ管轄裁判所ニ送付スルノ言渡ヲ爲スコシ

(解釋)本條ハ被告事件重罪ナリト思料シタルモノニテ既ニ豫審ヲ經タル時ノ處分方ヲ示シタルモノナリ

第三百六十二條 會議局ノ言渡ニ因リ事件ヲ受理シタル場合ニ於テ新ナル証憑ヲ發見スルコトナクシテ其事件ヲ重罪ナリトスル時ハ管轄違ノ言渡ヲ爲スコシ

檢事ハ大審院ニ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スコシ

(解釋)會議局ニ於テ最初被告事件ヲ輕罪ナリト認メ輕罪裁判所ニ送付シタリ然ルニ輕罪裁判所ニ於テ新ナル証據ヲ發見スルコトナキテ以テ之ヲ輕罪ナリトスルコト能ハス尙ホ重罪ナリト認ムル時ハ之ヲ再ヒ會議局ニ送付ス可ラス何トナレハ一旦會議局ノ判決ヲ經タレハ復タ之ヲ送付スルモ同シキ事ナレハナリ然ラハ輕罪裁判所ニ於テハ其重罪ナリト認メタルニモノヲ枉ケテ裁判センカ是レ大ニ理ニ戻ルナリ然ラハ則チ之ヲ如何シテ可ナランカ實ニ判ノ途茲ニ梗塞スト謂ハサルヲ得サルナリ故ニ此場合ニ於テハ檢事大審院ニ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スコキモノトス

第三百六十三條 前二條ノ場合ニ於テハ會議局又ハ大審院ノ判決アルマテ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ被告人ヲ裁判所ノ監倉ニ留置スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

又第二百十條以下ノ規則ニ從ヒ保釋ニ付キ判決ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百六十四條 被告事件輕罪ニシテ且証憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲スコシ

被告人禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ當然保釋責付ヲ取消シタル者トス但上訴中更ニ保釋ヲ求ムルコトヲ得

(解釋)本條モ亦敢テ解釋ヲ要セス

第三百六十五條 檢察官其他訴訟關係人ハ左ノ區別ニ從ヒ輕罪裁判所ノ裁判言渡ニ對シ控訴裁判所ニ控訴スルコトヲ得

一 檢察官又ハ無罪免訴ハ刑ノ言渡アリタル時但違警罪事件トシテ言渡アリタル場合ニ於テハ其事件ヲ輕罪ナリトスル時

二 被告人ハ違警罪ニ付テノ言渡ヲ除クノ外刑ノ言渡ヲ受ケタル時
 三 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ要償ニ付テノ言渡民事上始審裁判所ノ終審ノ金額ヲ超過シタル時
 四 檢察官其他訴訟關係人ハ管轄違越權擬律ノ錯誤又ハ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時

(解釋)本條ハ頗ル錯雜セリト雖ヒ敢テ解釋ヲ要セス

第三百六十六條 控訴ハ裁判言渡アリタル五日內ニ之ヲ爲スヲ得
 關席裁判ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スヲ得但第三百五十六條ノ場合ニ於テハ五日內ニ之ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百六十七條 公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケタル時ハ檢察官ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ監倉ニ移ス可シ

(解釋)控訴アル時ハ都テノ執行ヲ停止スルモノトス故ニ被告人ノ控訴ヲ爲シタルト對手人

ノ控訴ヲ爲シタルトヲ問ハス被告人ノ拘留ヲ受ケタル時ハ之ヲ控訴裁判所ノ監倉ニ移スモノトス而シテ其之ヲ移スハ檢察官ノ擔當スル所ナリトス

第三百六十八條 第三百三十九條ヨリ第三百四十二條マテ及ヒ第三百四十四條ノ規則ハ此章ニモ亦之ヲ適用ス

(解釋)本條ハ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第三百六十九條 輕罪裁判所檢事ノ控訴又ハ檢事長ノ附帶ノ控訴アリタル場合ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトスル時ハ第二百五十五條ノ規則ニ從ヒ會議局ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百七十條 控訴ノ關席裁判及ヒ其故障ニ付テハ始審ノ關席裁判及ヒ其故障ニ付キ定メタル規則ニ從フ

(解釋)本條ハ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第三百七十一條 檢察官其他訴訟關係人ハ輕罪裁判所ノ終審ノ對審裁判言渡及ヒ控訴裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヲ得

治 罪 法

(解釋) 上告ハ故障控訴ヲ經盡シタル上ニ非ラサレハ之ヲ爲スヲ許サス是レ本條終審及ヒ對審ノ裁判言渡ニ限リ上告ヲ爲スヲ許シタル所以ナリ

○第四章 重罪公判 (凡三十八條)

(解釋) 本章ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百七十二條 重罪裁判所ニ於テハ左ノ條件ニ依テ公訴ヲ受理ス

- 一 豫審判事又ハ輕罪裁判所會議局ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡
- 二 控訴裁判所又ハ大審院ノ判決ニ因リ其事件ヲ移スノ言渡

(解釋) 重罪事件ニ付テハ必ラス豫審ヲ經ルモノナレハ豫審判事ニ於テ其事件ヲ移スノ言渡ニ因ルカ又ハ輕罪裁判所ニ於テ被告事件ヲ重罪ナリトシテ其裁判所ノ會議局ニ送付シタル後チ會議局ニ於テ其事件ヲ移スノ言渡アリタル時又ハ控訴裁判所ニ於テ其事件ヲ移スノ言渡若クハ大審院ニ於テ裁判管轄ヲ定ムルノ言渡ニ因リ公訴ヲ受理スルモノニシテ決シテ檢察官又ハ民事原告人ヨリ直チニ被告人ヲ呼出シタルニ因テ公訴ヲ受理スルモノニ非ラサルナリ是レ輕罪及ヒ違警罪ト異ナル所ナリ

第三百七十三條 重罪裁判所ニ移スノ言渡確定シタル時ハ左ノ區別ニ從

ヒ公訴狀ヲ作ル可シ

控訴裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク時ハ檢察長公訴狀ヲ作ル可シ
始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開クキハ檢察長公訴狀ヲ作り又ハ重罪裁判所檢察官ノ職務ヲ行フ可キ檢事ヲシテ之ヲ作ラシム可シ

(解釋) 本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百七十四條 公訴狀ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 被告事件ノ始末及ヒ加重減輕ノ模様
- 二 被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地
- 三 豫審ニ於テ集取シタル原被ノ証憑
- 四 罪名法律ノ正條及ヒ重罪裁判所ニ移スノ言渡ノ概要

(解釋) 本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百七十五條 公訴狀ニハ重罪裁判所ニ移スノ言渡書ニ記載シタルヨリ以外ノ事件又ハ被告人ヲ記載ス可ラス

(解釋) 本條モ亦同シク解釋ヲ要セス

第三百七十六條 重罪裁判所ニ移スノ言渡書ニ同一ノ被告人ニ對シ附帶ニ非サル數箇ノ重罪ヲ記載シタル場合ニ於テ檢察官ハ各別ニ公訴狀ヲ作リタル上ニテ各別ニ辯論ヲ爲スヲ裁判所長ニ請求スルヲ得
裁判所長ハ同一ノ公訴狀ニ附帶ニ非サル數箇ノ重罪ヲ記載シタル場合ニ於テ其職權ヲ以テ各別ニ論辯ヲ爲サシムルヲ得又數箇ノ公訴狀ニ記載シタル事件ニ付キ同時ニ辯論ヲ爲サシムルヲ得

(解釋)本條ハ頗ル錯雜セリト雖モ敢テ解釋ヲ要セス

第三百七十七條 書記ハ被告人出廷ヨリ少クトモ五日日前ニ公訴狀ノ謄本ヲ被告人ニ送達ス可シ

被告人數名アル時ハ各別ニ其謄本ヲ送達ス可シ

(解釋)本條ハ被告人ナシテ辯護ノ豫備ヲ爲サシメンカ爲メニ設ケタルモノナリ

第三百七十八條 重罪裁判所長又ハ其委任ヲ受ケタル陪席判事ハ公訴狀ノ送達アリタルヨリ二十四時ノ後書記ノ立會ニ依リ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問シ且辯護人ヲ選任シタリヤ否ヤヲ問フ可シ

若シ辯護人ヲ選任セサル時ハ裁判所長ノ職權ヲ以テ其裁判所々屬ノ代官人中ヨリ之ヲ選任ス可シ

被告人及ヒ代官人ヨリ異議ノ申立ナキ時ハ代官人一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルヲ得

辯護人ヲ選任シタルヨリ三日ノ後ニ非サレハ辯論ニ取掛ルヲ得ス

(解釋)本條辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤヲ問フ所以ノモノハ重罪事件ニ就テハ必ス辯護人ヲ

用ウ可キモノニシテ若シ辯護人ナクシテ爲シタル時ハ其裁判ノ無効ニ歸スルヲ以テナリ第

二項第三項ハ敢テ解釋ヲ要セス第四項辯護人ヲ選任シタルヨリ三日ノ後ニ非ラサレハ辯論

ニ取掛ルヲ得スト規定シタルハ是レ被告人ヲシテ辯護人ト充分ニ商議セシメンカ爲メナ

リ

第三百七十九條 辯護人差支アル時若クハ被告人ヨリ之ヲ改選ス可キ正

當ノ事由ヲ申立タル時被告人自ラ辯護人ヲ選任スルニ非サレハ前條ノ規則ニ從ヒ裁判所長ヨリ之ヲ選任ス可シ但辯護人ヲ改選シタル時ニ三日間

辯論ヲ停止ス可シ

(解釋)本條ノ場合ニ於テ三日間辯論ヲ停止ス可シト定メタルハ是レ亦被告人ヲシテ後ノ辯護人ト能ク商議セシメンカ爲ナリ
第三百八十條 書記ハ第三百七十八條ノ場合ニ於テ訊問ノ調書ヲ作り辯護人ヲ選任スルニ付キ其式ヲ履行シタルト記載ス可シ
辯論中辯護人ヲ改選シ及ヒ辯論ヲ停止シタル時ハ公判始末書ニ其旨ヲ記載ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百八十一條 辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカル可シ

第三百七十七條ヨリ第三百七十九條マテノ規則ニ背キタルコトアリト雖モ辯論ニ取掛ル前ニ非サレハ被告人ヨリ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス
△參看 明治十五年一月九日第壹號布告

治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカルヘシト有之候得共其裁判所所屬ノ代言人無之場所ニ

於テハ當分ノ内辯護人ヲ用ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無効ノ限リニ在ラス

(解釋)本條第一項ハ特ニ有罪ノ言渡ヲ爲シタル時ノミ無効ニ歸スルモノニシテ若シ無罪ノ言渡ヲ爲シタル時ハ假令辯護人ナシト雖モ其言渡ハ有効ナルモノトス是レ何ニ由テ然ルノ差違アルカ曰ク辯護人ナクシテ言渡シタル刑ハ或ハ過嚴ニ失スルノ恐れアルヲ以テ其被告人ノ利益トナル可キモノハ充分ニ之ヲ擴張センカ爲メニ辯護人ヲ附ス可キモノト定ム而シテ辯護人ハ假令本撤李拔ノ法理ヲ究メテ且ツ蘇秦張儀ノ辯ヲ有スル者ナリトモ遂ニ被告人ナシテ無罪ノ言渡ヲ受ケシムルノ上ニ出ツ可ラス故ニ好シヤ辨護人ナシト雖モ其無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ハ彼ノ辯護人ヲ用非タル最大ノ利益ヲ得タルモノナレハ其刑ノ言渡無罪ナル時ハ有効ナルモノトス

第三百八十二條 辯護人ハ第三百七十八條ノ處分アリタル後被告人ト接見スルコトヲ得又書記局ニ於テ一切ノ訴訟書類ヲ閱讀シ且之ヲ抄寫スルコトヲ得

辯護人ヲ除クノ外何人ト雖モ重罪裁判所ニ移スノ言渡アリタルヨリ裁判言渡アルマテ被告人ト接見スルコトヲ得ス但被告人現ニ拘留ヲ受クル地ノ

裁判所長ノ允許ヲ得タル時ハ此限ニ在ラス

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百八十三條 檢察官及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出シタル証人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一日前之ヲ被告人ニ送達ス可シ

被告人ノ請求ニ因リ呼出シタル証人ノ氏名目錄ハ同上ノ期限内ニ書記ヨリ之ヲ檢察官ニ送致シ民事ニ付キ呼出シタル証人ノ氏名目錄ハ之ヲ民事原告人ニ送達ス可シ

(解釋)原告被告人ニ証人ノ氏名ヲ通知スル所以ノモノハ証人ニ付キ故障ヲ爲ス可キモノアルニ因リ其中立ヲ爲シ又答辯ノ豫備ヲ爲サシム可キカ爲メナリ

第三百八十四條 前條ノ規則ニ從ヒ豫メ氏名ヲ通知セサル証人ノ陳述ハ事實參考ノ爲メニ非サレハ之ヲ聽クコトヲ得ス但對手人ヨリ異議ナキコトヲ申立タル時ハ証人トシテ其陳述ヲ聽クコトヲ得

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百八十五條 証人ハ呼出狀ノ送達ト出廷トノ間少クトモ二日ノ猶豫

ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ

(解釋)本條モ亦敢テ解釋ヲ要セス

第三百八十六條 裁判長ハ開廳ノ日ニ當リ公廷ニ於テ陪席判事檢察官ノ而前ニテ開廳ス可キコトヲ陳述ス可シ但被告人ヲ呼出ス可ラス

(解釋)本條ハ重罪裁判所開廳ノ方式ヲ定メタルモノナリ

第三百八十七條 裁判長辯論二日以上ニ涉ル可シト思料シタル時ハ重罪裁判所々在ノ地ノ裁判所判事一名ヲ以テ豫備陪席判事ト爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百八十八條 裁判官檢察官及ヒ書記各其席ニ就キタル後即時ニ訊問及ヒ辯論ニ取掛ル可シ

裁判長ハ先ツ被告人ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ヲ問フ可シ

若シ其答辭ト豫審中ノ陳述ト齟齬アリト雖モ公訴狀ニ記載シタル被告人ニ相違ナキ時ハ引續キ辯論ヲ爲ス可シ

(解釋)本條モ亦敢テ解釋ヲ要セス

第三百八十九條 書記ハ呼出シタル証人ノ氏名ヲ呼立ツ可シ
其呼立ニ應シタル証人ハ扣席ニ退カシメ陳述ヲ爲スニ當リ順次ニ之ヲ呼
入ル可シ

(解釋)本條ハ雷同ノ弊ヲ防カンカ爲ニ設ケタルモノナリ

第二百九十條 裁判長ハ書記ヲシテ公訴狀ヲ朗讀セシムルニ付キ注意シ
テ聽ク可キヲ被告入ニ告知ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第二百九十一條 裁判長ハ書記前條ノ朗讀ヲ終リタル後被告人ヲ訊問ス
可シ

被告人豫審中ニ白狀シタル事件ヲ確認セス又ハ之ヲ取消サントスル時ハ
其事由ヲ辯明セシム可シ

被告人ノ白狀アリト雖モ仍ホ其取調ヲ爲ササル可ラス

(解釋)被告人ハ裁判長ヨリ訊問ヲ受クルニ當リ其罪ヲ蔽ハンカ爲メ前ニ白狀シタルヲ知
ラスト詐リ或ハ先キノ白狀ハ眞ニ吾意ニ出テタルニ非ラサル等ノヲ述ヘ以テ之ヲ取消サ

ントスルヲナシトセス故ニ若シ夫レ然ルモハ其事由ヲ辯明セシム可キモノトス

被告人自ラ被告事件ノ確實ナルヲ白狀スト雖モ輒ク之ヲ証ト爲シ難キヲアリ夫レ親屬故
舊ノ罪ヲ救ハンカ爲メ情義ニ出テ不實ノ陳述ヲ爲シ又ハ其他ノ爲メニスル所アリテ白狀ヲ

爲スコトハ古今其例少ナシトセス故ニ白狀アリト雖モ辯論ヲ停止セス必ス其有罪ナルカ無罪
ナルカヲ討究シテ公判終結ス可キモノトス

第三百九十二條 裁判長ハ前條ノ訊問ヲ終リタル後証憑ヲ差出スニ從ヒ
其証憑ニ付辯解ヲ爲シ且自己ノ利益ト爲ル可キ反証ヲ差出スヲ得可キヲ
被告人ニ告知ス可シ

(解釋)本條ハ裁判長ヲシテ被告人ヲ保護スルニ注意ス可キヲ定メタルモノナリ

第三百九十三條 裁判長ハ原告証人陳述ヲ終リタル毎ニ被告人ニ意見ヲ
リヤ否ヲ問フ可シ

(解釋)本條ハ被告人ノ答辯屈塞ノ恐レナカラシメンカ爲メニ設ケタルモノナリ

第三百九十四條 証人ハ陳述ヲ爲シタル後其扣席ニ留ル可シ但裁判長ヨ
リ退廷ノ允許ヲ得タル時ハ此限ニ在ラス

陪席判事檢察官被告人及ヒ民事原告人ハ更ニ証人ヲ訊問スルヲ又証人ヲシテ他ノ証人ト對質セシムルヲ請求スルヲ得
裁判長ハ職權ヲ以テ前項ノ處分ヲ爲スヲ得

(解釋)証人ハ陳述ヲ爲シタル後ト雖モ復タ再ヒ其陳述ヲ要スルノ場合アルヲ以テ其前ノ陳述ヲ爲シタル後ト雖モ其扣席ニ留マラシメ敢テ隨意ニ公廷ヲ退クヲ得テラシメタリ
第三百九十五條 裁判長ハ証人愛憎畏懼ノ念ヲ生シ被告人ノ面前ニ於テ充分ナル陳述ヲ爲スヲ得サル可シト思料シタル時ハ檢察官民事原告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其証人ノ陳述中被告人ヲ退席セシムルヲ得

裁判長ハ証人陳述ヲ終リタル後再ヒ被告人ヲ公廷ニ呼入レ其陳述シタル條件ヲ告知シ且被告人ニ意見アル時ハ之ヲ中立シム可シ

(解釋)証人ハ愛憎畏懼ノ心ナク正實ニ陳述ヲ爲ス可キノ宣誓ヲ爲シタルト雖モ現ニ被告人ト相對スルニ當テヤ嘗テ其被告人ニ恩義アリ若クハ仇嫌アリ之レカ爲メ知ラス識ラス愛憎ノ念ヲ生シ又ハ被告人ノ慄悍ナルヲ見之レカ爲メ自ラ畏懼ノ心ヲ生シ其面前ニ於テハ充分ニ陳述ヲ爲スヲ能ハサルノ狀態アルカ如キハ實際上蓋シ亦少ナシトセス然レモ若シ被告人ヲシテ退席セシムル時ハ其既ニ動キタル所ノ思念漸ク消滅シ亦充分ナル陳述ヲ爲スヲ得ルニ至ル可シ故ニ立法者ハ此等ノ點ヲ慮リテ本條ヲ設ケタルナリ

第三百九十六條 裁判長ハ第三百條ニ定メタル手續ノ終リタル後公訴ニ付キ辯論ノ終結シタルヲ言渡ス可シ

(解釋)本條ハ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第三百九十七條 檢察官及ヒ被告人ハ辯論中ニ發見シタル條件ニ付豫審ヲ求ムルヲ得裁判所ニ於テ其請求ヲ認可シタル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシム可シ
第三百五十七條一項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

(解釋)本條モ亦唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第三百九十八條 辯論終結ノ言渡アリタル時ハ檢察官法律適用ノ爲メ其意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ辯護人ハ檢察官ノ意見其當ヲ得サルヲ辯論スルヲ得

(四九五)

(釋解)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第三百九十九條 前條ノ辯論ヲ終リタル後民事原告人ハ私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ被告人辯護人及ヒ民事擔當人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得

檢察官ハ私訴ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

裁判所ニ於テハ私訴ノ辯論ヲ延期スルコトヲ得但閉廳前之ヲ判決ス可シ

法 罪 治

第四百條 被告事件重罪ニシテ且証憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス可シ

(解釋)本條ハ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第四百一條 犯罪ノ証憑充分ナラサル時ハ無罪ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス可シ

又原被ノ要償ニ付キ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ裁判言渡ヲ爲ス可シ

治

第四百二條 辯論中公訴狀ニ記載シタル事件ニ附帶セサル他ノ重罪輕罪ヲ發見シタル場合ニ於テ檢察官ノ請求アル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲サシメ本會又ハ次會ニ於テ本案ノ事件ト共ニ之ヲ裁判ス可シ

(解釋)被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ賠償ノ責メヲ免カル、ト能ハサルコトアリ即チ第八條ヲ參看ス可シ又民事原告人ハ却テ其惡意若クハ重キ過失ニ因リ被告人ヨリ要償セラレ、トアリ即チ第十六條ヲ參看ス可シ故ニ原被ノ要償ニ付テハ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ裁判言渡ヲ爲ス可キモノトス

法

(解釋)辯論中ニ發見シタル條件ト雖モ本案ニ附帶セサルモノナル時ハ重罪裁判所ニ於テ直チニ之ヲ管轄スルノ權ナシ故ニ檢察官ノ請求ニ因リ本案ノ裁判ヲ停止シ判事一名ヲシテ其事件ニ付キ豫審ヲ爲サシメ然ル上ニテ數罪俱發一ノ重キニ從フノ原則ニ基キ本案ノ事件ト共ニ裁判ヲ爲ス可キモノトス

(五九五)

第四百三條 檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得

(解釋)重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シテハ控訴ヲ許サス獨リ上告ノ途アルノミ蓋シ闕席裁判ニ付テハ別ニ故障アルヲ以テナリ

第四百四條 闕席裁判ヲ爲スニハ裁判長書記ヲシテ公訴狀及ヒ必要ナリトスル豫審書類ヲ朗讀セシメ又原被証人ノ陳述ヲ聽ク可シ

檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ民事原告人ハ要償ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ民事擔當人ハ答辯スルヲ得

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百五條 闕席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ本人又ハ其住所ニ送達ス可シ

(解釋)本條モ亦敢テ解釋ヲ要セス

第四百六條 闕席裁判ニ係ル刑ノ言渡ニ對シテハ檢察官ニ非サレハ上告ヲ爲スヲ得ス

民事原告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ノ裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヲ得

(解釋)本條モ亦同シク解釋ヲ要セス

第四百七條 闕席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スヲ得但捕ニ就キタル時ハ十日內ニ故障ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ノ故障刑ノ期滿免除ニ至ルマテト記シタルハ其期滿免除ニ至レハ公然免訴タル

ヲ得レハ敢テ故障ヲ爲スノ要ナケレハナリ

第四百八條 故障ノ申立ハ闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

重罪裁判所ニ於テハ先ツ其故障ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ

其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百九條 闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ハ其地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ故障ノ申立ヲ爲ス可シ

控訴裁判所ニ於テ其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ通常ノ規則ニ

控訴裁判所ニ於テ其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ通常ノ規則ニ

從ヒ更ニ重罪裁判所ノ裁判ヲ受ク可キノ言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)本條モ亦敢テ解釋ヲ要セス

◎第五編 大審院ノ職務 (凡四節 四十九條)

(解釋)大審院ノ構成及ヒ權限ニ付テハ第二編第六章ニ於テ之ヲ規定セリ今本編ハ其職務ヲ規定シタルモノナリ抑モ大審院ナルモノハ各裁判ノ法律ニ違ヒ定規ニ戻ルモノヲ改正シ以テ全國法律ノ適用ヲ一定ナラシメンカ爲メニ設ケタルモノナリ故ニ該院ニ於テハ特ニ法律ノ解釋ヲ爲スニ止マリ敢テ事實ノ鑑定ヲ爲サ、ルナリ

○第一章 上告 (凡二十九條)

(解釋)上告ハ最上終極ノ上訴ナルヲ以テ苟モ他ニ原言渡ヲ矯正スルノ方法アル時ハ之ヲ舍テ直チニ上告ヲ爲スヲ許サス故ニ上告ハ終審ノ言渡ニ限り之ヲ許スモノトス

第四百十條 檢察官及ヒ被告人ハ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ左ノ場合ニ於テ上告ヲ爲スヲ得

一 法律ニ背キ忌避ノ申立ヲ認可セサル時

二 裁判所ノ構成規則ニ背キタル時

三 法律ニ背キ管轄違又ハ管轄ナリトノ言渡若クハ管轄ニ非サル裁判所ニ事件ヲ移スノ言渡アリタル時

四 法律ニ於テ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時又ハ無効ノ記載ナキ規則ニ背キタルニ因リ異議ノ申立アリタル場合ニ於テ之ヲ認可セサル時

五 法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサル時

六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察官ノ意言ヲ聽カサル時

七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルヲ得可キ場合ヲ除クノ外請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタル時

八 裁判言渡ヲ公行セス又ハ傍聽ヲ禁スルノ言渡ナクシテ訊問及ヒ辯論ヲ公行セサル時

九 事實及ヒ法律ニ因リ言渡ノ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アル時

十 擬律ノ錯誤アル時

十一 越權ノ處分アル時

(解釋)本條ハ上告ヲ爲シ得可キノ原由ヲ定メタルモノニシテ其原由十一個アリ而シテ其一ノ原由ハ何レモ皆ナ其裁判ノ法律ニ違ヒ定規ニ戻リタルモノナリ是レ上告ハ裁判ノ事實ニ違フモノヲ覆審スルニ非ラスシテ法律ニ背キ定規ニ違フモノヲ覆審スルモノナルヲ以テナリ而シテ本條ニ所謂豫審トハ豫審ニ付キ故障ヲ爲シ其故障ノ言渡ニ對シテ上告ヲ爲スチ云フナリ乞フ符々ニ十一個ノ上告ノ原由ヲ説明セン

第一豫審中又ハ公判中裁判官若クハ書記ノ公平ヲ維持シ難キヲ疑ヒ第二百三十七條及ヒ第二百七十九條ニ記載シタル場合アルヲ鳴ラシテ忌避ノ申立ヲ爲シタルニ會議局ニ於テ之ヲ認可セサル時ハ明ニ法律ニ違背シタルモノトス故ニ其判決ノ破毀ヲ求メンヲ上告ヲ許セリ若シ此上告ヲ許サレハ忌避ヲ許シタルハ全ク徒法ニ屬スルノ恐レアルナリ然レモ若シ之レニ反シテ法律ニ背キ忌避ノ申立ヲ認可シタル時ハ上告ヲ爲スヲ許サス

第二裁判所ノ構成ニ背キタル時トハ例ヘハ重罪裁判所ニ於テ裁判長一名陪席判事二名(今茲ニ二名ト云フハ明治十五年第四十六號ノ布告ニ從フ)ヲ以テ裁判ヲ爲ス可キノ規則ナルニ之レニ背キ其定員ヲ減少シ陪席判事一名ト爲シ以テ裁判ヲ爲シタルカ如キノ類即チ是レナリ此場合ニ於テハ上告ヲ爲スヲ得ルモノトス

第三法律ニ於テハ犯罪ノ種類、性質、場所及ヒ被告人ノ身分ニ於テ各其管轄裁判所ヲ定メタリ故ニ若シ其定ムル所ノ法律ニ背キ當然其事件ヲ管轄ス可キ裁判所ニ於テ管轄ニアラサルノ言渡ヲ爲シタル時又ハ其事件ヲ管轄ス可キ裁判所ニアラスシテ却テ管轄ナリトノ言渡ヲ爲シタル時若クハ其管轄ニアラサル裁判所ニ事件ヲ移スノ言渡ヲ爲シタル時ハ都テ上告ヲ爲スヲ許スナリ

第四法律ニ於テ無効ノ記載アル規則ニ背クトハ例ヘハ第三百八十一條ニ辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカルヘシトアル規則ニ背キタルカ如キノ類ヲ云ヒ其無効ノ記載ナキ規則ニ背クトハ例ヘハ第三百七十九條ニ辯護人ヲ改選シタル時ハ三日間辯論ヲ停止ス可シトアル規則ニ背キタルカ如キノ類ヲ云フ而シテ其無効ノ記載アル規則ニ背キタル時ハ唯タ其背キタルノミチ以テ上告スルヲ許スト雖モ其背キタルノミチ以テハ未ダ上告スルヲ得ス必スヤ異議ノ申立ヲ爲シテ而シテ後チ其中立ヲ認可セサル時ニ非ラサレハ上告スルヲ許サレナリ

第五法律ニ背キ公訴ヲ受理スルトハ例ヘハ有夫姦ノ如キ其本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可

キモノニ付キ其本夫ノ告訴ヲ俟タスシテ檢察官ヨリ公訴アリシモノヲ受理シタルカ如キノ類ヲ云ヒ又ハ受理セサル時トハ是等ノ原因ナクシテ之ヲ受理セサルカ如キノ類ヲ云フ其場合ニ於テハ上告スルコトヲ得ルモノトス

第六法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽クヲ要スルモノ往々之レアリ故ニ其檢察官ノ意見ヲ聽クヲ要スルノ場合ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽カサル時ハ上告スルコトヲ許ス

第七裁判所ニ於テハ請求ヲ受ケタル事件ニ付テハ必ス之レカ判決ヲ爲サ、ル可ラサルモノトス故ニ若シ其請求ヲ受タル事件ニ付判決ヲ爲サ、ル時ハ上告ヲ爲スコトヲ許ス之レニ反シテ其請求ヲ受ケサル事件ニ付テハ決シテ判決ヲ爲スコトヲ得ス故ニ若シ其請求ヲ受ケサルノ事件ニ付キ判決ヲ爲シタル時ハ又上告ヲ爲スコトヲ許ス但シ其職權ヲ以テ判決ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テハ其請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタリト雖モ決シテ上告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第八裁判言渡ハ必ス之ヲ公行セサル可ラサルモノトス是レ第二百六十三條ノ明示スル所ナリ故ニ若シ其裁判言渡ヲ公行セサルニ於テハ上告ヲ爲スコトヲ許ス又被告事件公安ヲ害シ又ハ猥褻ニ涉リ風俗ヲ害スルノ恐レアル時ハ其訊問及ヒ辯論ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得ルト雖モ

之ヲ禁スルニハ必ス其旨ヲ言渡サ、ル可ラサルモノトス是レ第二百六十四條ノ明示スル所ナリ故ニ若シ其言渡ナクシテ訊問及ヒ辯論ノ傍聽ヲ禁シテ之ヲ公行セサル時ハ又上告ヲ爲スコトヲ許スナリ

第九豫審終結ノ言渡及ヒ公判ノ言渡ニハ其事實及ヒ法律ノ正條ニ依リ其理由ヲ付セサル可ラサルモノトス是レ第二百二十八條及ヒ第三百四條ノ明示スル所ナリ抑モ事實ノ理由ハ最モ緊要ニシテ決シテ之ヲ欲ク可ラサルモノトス何トナレハ若シ明確ニ事實ヲ示サ、ル片ハ裁判ハ乃チ其基礎ヲ失ヒ其專恣ニ出テタルニ類スルコトアル可ク又刑法ノ適用果シテ其事實ニ當ルヤ否ヤヲ檢審スルニ由ルナカル可キヲ以テナリ而シテ法律ニ依ルノ理由ハ此ノ如ク緊要ナラスト雖モ亦ナカル可ラサルモノナリ故ニ事實及ヒ法律ニ依リ又ハ其理由ヲ付スルモ前後齟齬シ彼此矛盾スルノ言渡ニ對シテハ共ニ上告ヲ爲スコトヲ許スナリ

第十擬律ノ錯誤トハ刑法ノ適用ヲ誤リタルモノヲ云フ例ヘハ常事犯ニ當ツルニ國事犯ノ刑ヲ以テシ又ハ重罪ノ刑ヲ輕罪ニ科シ若クハ擅ニ刑ヲ輕重シ長短二期多寡兩數ノ外ニ出シ及ヒ甲條ニ依テ罰ス可キモノヲ乙條ニ照ラシテ處斷スル等ノ如キ類即チ是レナリ此場合ニ於テハ上告ヲ爲スコトヲ許スナリ

第十一越權ノ處分アルトハ例ヘハ犯罪事件禁錮以上ノ刑ニ該テサル被告人ヲ勾留シ又ハ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニシテ勾留スルヲ得可キ者ト雖モ其勾留ノ期日成規ニ過クルカ若クハ現行犯ノ場合ニ非ラスシテ豫審判事訴アルヲ俟タスシテ豫審處分ニ取掛リタル時或ハ白狀セシムル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用キ公廷ニ於テ被告人ノ身體ヲ拘束シタルノ類ヲ云フナリ是レ皆ナ固ト法律ノ許サ、ル所ナリ故ニ此ノ如キ越權アリタル時ハ上告ヲ爲スヲ許セリ

第四百十一條 免許又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規則ニ背キタルト又ハ犯罪ノ場所ニ因リ管轄違アリト雖モ上告ヲ爲スヲ得ス

(解釋)前條ハ上告ヲ爲スヲ得可キ場合ヲ示シタルモノニシテ本條ハ上告ヲナスヲ得可ラサル場合ヲ示シタルモノナリ抑モ被告人ノ上告ヲ爲ス所以ノ口ハ其利益トナランカ爲メニ在リ然ラハ假令規則ニ背クアアルモ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規則ニ背キタル場合ニ於テハ被告人ノ利益之レニ過クルナシ何ヲ苦ンテカ上告スルヲ爲サン寧ロ此ノ場合ニ於テハ上告ヲ爲スヲ得スト定ムルノ優レルニ若カサルナリ又犯罪ノ場所ニ因リ管轄違アリト雖モ敢テ被告人ノ不利益ト爲ルノコナケレハ是レ亦上告ヲ爲スヲ得サルモノトス

婦人霍塞的氏曰ク夫レ代議士トシテ議院ニ列ナラシムル爲メ適當ノ人才ヲ選舉スルハ固ヨリ選舉者ノ任ナリ今日ニ於テ常ニ職業ニ奔走スル輩ヲシテ國會議院ノ候補者タラシムルヲ禁制スルノ法律ヲ頒布スルニ及ハス統テ斯ノ如キ事ハ立法官ノ干涉セサルモ候補者及ヒ選舉人カ自ラ之ヲ整頓スルモノトス彌爾氏言ヘルアリ曰ク凡ソ人民ノ爲ス能ハサル所ノ者ヲ禁スルノ法律ヲ設ルニ及ハスト苟モ腕力強壯ノ人ニ非ラサレハ鐵匠タルヲ得スト爲ス法律ヲ巴力門ヨリ布告セサルモ鐵匠タル輩ハ必ス腕力強壯ノ人ナル可シ婦人ニ選舉權ヲ與フル場合ニ於テモ亦然リ法律ヲ以テ制限セサルモ選舉人タルニ適當ノ婦人ハ必ス選舉者タルヲ得可シ苟モ選舉人ノ資格ヲ備フル者ニシテ故ラニ全ク不適當ノ代議士ヲ選舉スルモノニ非ラス議院ニ列ラナル代議士ノ選舉ニ關スル疑問ハ皆ナ選舉人タル者ノ決定ス可キモノトスト以上霍塞的氏ノ議論ハ本條トハ其論題ヲ異ニスト雖モ其精神ヲ取テ以テ之ヲ本條ニ照ラヌ時ハ或ハ少シク疑ヒノ生スルモノナキ能ハサルナリ然リト雖モ都テ法律ハ分明ナルヲ貴ムナリ去レハ僅ニ一條ヲ加ヘタルノ故ヲ以テ其上告ヲ爲スヲ得ルモノト其之ヲ爲スヲ得サルモノトノ區界ヲ分明ナラシメタルハ實ニ良策ト謂ハサル可ラサルナリ

第四百十二條 民事原告人被告人及民事擔當人ハ私訴ニ關スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ第四百十條ニ定メタル理由ニ付上告ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ニ就テハ社會ノ利害ニ關係ナキヲ以テ檢察官ハ上告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第四百十三條 上告ノ對手人ハ大審院ノ判決アルマテ何時ニテモ附帶ノ上告ヲ爲スコトヲ得

大審院檢察長モ亦附帶ノ上告ヲ爲スコトヲ得

(解釋)本條ハ第二百四十九條及ヒ第二百四十二條若クハ第三百六十八條ノ主義ト同一ナリ

故ニ今敢テ之ヲ贅セス

第四百十四條 上告ノ期限ハ三日ナリトス但豫審ニ付テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ起算シ公判ニ付テハ言渡アリタルヨリ起算ス

(解釋)豫審ニ付テハ原被告ノ辯論ナキヲ以テ公廷ニ於テ終結ノ言渡ヲ爲サスシテ會議同ニ於テ判決ヲ爲シ其言渡ヲ訴訟關係人ヘ送達スルモノナレハ其言渡書ノ送達アリタル日ヨリ起算ス然レニ公判ニ付テハ必ス公廷ニ於テ言渡ヲ爲スヲ以テ其言渡ノ當日ヨリ之ヲ起算ス豫

審公判其手續ヲ異ニスルヲ以テ勢ヒ其起算ノ時ヲ同ウセスト雖ニ其上告ノ期限ハ共ニ三日ナリトス

ナリトス

第四百十五條 豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上告アリタル時ハ拘留保釋責付釋放及ヒ放免ノ言渡ヲ除クノ外其執行ヲ停止ス

(解釋)豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シテ上告アリシ時ハ中原ノ鹿未タ跳レノ手ニ落ツルヲ知ラ

ス此時ニ當テ其執行ヲ爲スハ寧ロ大早計ノコト謂ハサルヲ得ス是本條ノ設ケアル所以ナリ

第四百十六條 上告ヲ爲サントスル者ハ其中立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

上告ノ申立書ハ其申立アリタルヨリ二十四時内ニ書記ヨリ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

(解釋)上告ノ期限ハ僅ニ三日ナレハ若シ直チニ之ヲ大審院ニ其中立ヲ爲ス可キモノトスル

時ハ長崎控訴裁判所管轄及ヒ兩館控訴裁判所管轄ノ人民ハ常ニ其期限ヲ經過シテ其權ヲ失

フニ至ラン畢竟上告ノ法律アリテ其上告ノ實ヲ得ルコトナシ其之ヲ得ル者ハ僅ニ東京近縣ニ

止マルノ不都合アリ故ニ立法者ハ本條ヲ設テ其不公平ナカラシムコトヲ務メタリ

第四百十七條 上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原

裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ
書記ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百十八條 對手人ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ五日内ニ答辯書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ其答辯書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ上告申立人ニ送達ス可シ

(解釋)本條ハ亦敢テ解釋ヲ要セス

第四百十九條 檢察官ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辯書ハ二通ヲ作リ一通ヲ大審院ニ差出シ一通ヲ對手人ニ送達ス可シ

私訴ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辯書ニ付テモ亦同シ

(解釋)檢察官ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辯書二通ヲ作ル可キモノトスルハ是レ書記

ノ謄寫ノ勞ヲ省カンカ爲メナリ

第四百二十條 書記ハ前數條ニ定メタル期限經過シタル後速ニ訴訟書類及ヒ上告書類ヲ其裁判所ノ檢察官ニ差出ス可シ

檢察官ハ其書類ヲ五日内ニ大審院檢察長ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ添フ可シ

檢察長ハ上告事件ヲ刑事局ノ簿冊ニ登記ス可キトテ院長ニ請求ス可シ

(解釋)檢察官上告申立人ナル時ト雖モ書記ヨリ差出シ來ル所ノ訴訟書類ヲ受取リ又自ラ五日

日内ニ之ヲ大審院檢察長ニ差出ス可キモノトス

第四百二十一條 上告申立人及ヒ對手人ハ代言人ヲ差出ス可キヲ得

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢察官ヨリ重罪ノ刑ニ該ル可キ者トシテ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者自ラ代言人ヲ選任セサル時ハ院長ノ職權ヲ以テ其院所屬ノ代言人中ヨリ之ヲ選任ス可シ

(解釋)前項ハ法文結尾ノ得トアルヲ以テ代言人ヲ差出スト否トハ全ク其上告人ノ自由ニシ

テ之ヲ差出サ、ルモ亦可ナレモ後項ハ其法文ノ結尾之ヲ選任ス可シト命令スルヲ以テ必ス
代理人ヲ選任セサル可ラサルモノトス

第四百二十二條 院長ハ刑事局判事ニテ專任判事一名ヲ命ス可シ

專任判事ハ一切ノ書類ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ル可シ但自己ノ意見ヲ付ス
可ラス

(解釋)大審院ハ事實ヲ審明スル所ニ非ラス故ニ証人ヲ訊問シ原被ノ辯論ヲ聽クコトヲ抑モ
其職トスル所ハ單ニ法律適用ノ當否ヲ審判スルニ在レハ專任判事ヲ命シ一切ノ書類ヲ檢閲
シ其報告書ヲ作ラシム可キモノトス

第四百二十三條 上告申立人及ヒ對手人ハ專任判事ノ報告書ヲ差出スマ
テハ大審院書記局ヲ經由シテ其趣意ヲ擴張ス可キ辯明書ヲ差出スコトヲ得
專任判事報告書ヲ差出シタル後辯明書ヲ差出シタル時ハ之ヲ其報告書ニ
添フ可シ

(解釋)各々言ハント欲スル所ハ充分ニ之ヲ言ヒ盡クサシメンカ爲メ本條ヲ設ケタリ

第四百二十四條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ

對手人ノ代理人ニ報知ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百二十五條 開廷ノ日ニハ公廷ニ於テ專任判事其報告書ヲ朗讀ス可
シ

檢事長及ヒ代理人ハ各其趣意ヲ辯明ス可シ

私訴ノ上告ニ付テハ檢事長最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百二十六條 上告申立人又ハ對手人ヨリ代理人ヲ差出サ、ル時ハ其
儘ニテ判決ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ被告人輕罪ノ刑ニ該ルノ場合ニ限り之ヲ適用スルモノナリ故ニ若シ重罪ノ刑
ニ該ル者ナル時ハ被告人ノ上告シタルト檢察官ノ上告シタルトニ論ナク都テ代理人ヲ選任
ス可キヲ以テ其規則トスルコト第四百二十一條第二項ノ定ムル所ナリ

第四百二十七條 大審院ニ於テ上告ノ理由ナシトスル時ハ之ヲ棄却スル
ノ言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)第四百十條ニ示シタル所ノ上告ノ理由ヲ缺キ又ハ法律上別ニ上告ヲ爲スヲ禁スル
場合ニ於テ上告ヲ爲シタル時ハ大審院ニ於テハ上告ノ理由ナシトシテ之ヲ棄却スルノ言渡
ヲ爲ス可キモノトス

第四百二十八條 大審院ニ於テ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對スル上告ニ付キ
破毀ノ原由アリトスル時ハ其言渡ノ全部ヲ破毀シ他ノ裁判所ニ移スノ言
渡ヲ爲ス可シ但後ノ數條ニ記載シタル場合ハ此限ニ在ラス

(解釋)本條ハ大ニ緊要ナルノ法條ト雖モ其意義敢テ解釋ヲ要セス

第四百二十九條 擬律ノ錯誤若クハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セ
サルニ因リ原裁判言渡ヲ破毀シタルモ其事件ヲ移スヲナク大審院ニ於
テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ原裁判言渡ノ不可ナル既ニ明晰ニシテ又敢テ他ノ裁判所ニ移シテ之ヲ復審セ
シムルヲ要セス且ツ之ヲ他ノ裁判所ニ移ス時ハ徒ニ費用ヲ増加シ日時ヲ消費スルノミニシ
テ敢テ其利益アルナケレハ大審院ニ於テ直チニ之レカ裁判言渡ヲ爲ス可キモノトス

第四百三十條 豫審又ハ公判ノ手續規則ニ背キタルヲアリト雖モ其後ノ

手續ニ利害ヲ及ホサル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヲナク止メ其手
續ヲ破毀ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百三十一條 豫審又ハ公判ノ幾分ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ他
ノ部分ニ關係アラサル時ハ大審院ニ於テ其上告ニ係ル部分ヲ破毀シ法律
ニ從ヒ直チニ相當ノ裁判言渡ヲ爲シ又ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ

(解釋)本條モ亦敢テ解釋ヲ要セス

第四百三十二條 大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀シ直チニ裁判言渡ヲ爲
シタル時ハ原裁判所又ハ他ノ裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシム可シ

(解釋)上告アリタル場合ト雖モ被告人ハ原裁判所ノ監倉ニ留置ス可キモノナルヲ以テ大審
院ニ於テ原裁判ヲ破毀シ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ原裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシム
ルヲ可トス然レモ原裁判タル重罪裁判所ノ判決ニ係ル時ハ必スシモ其裁判所ヲシテ之ヲ執
行セシムルヲ得ス何トナレハ上告ノ判決ニ先チ閉廳スルヲアル可キヲ以テナリ故ニ他ノ
裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシムルヲアリ

第四百三十三條 大審院ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ裁判ヲ爲ス可キ時ハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ定示ス可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ民事裁判所ニ移ス可シ

(解釋)本條ハ固ヨリ當ニ然ラサルヘカテサルモノトス故ニ敢テ解釋ヲ要セス

第四百三十四條 法律ニ係ル大審院ノ判決ハ確定ノ者トス

大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ上告ヲ爲スコトヲ得

(解釋)法律ニ係ル大審院ノ判決ハ確固動カス可カラズ確定ノ者ナルヲ以テ最早上告ヲ爲ス

コトヲ得ス若シ之ヲ爲スコトヲ得ルトスルモ其上ノ裁判所ナキヲ以テ之ヲ上告スルコト能ハス故

ニ斯クハ規定セリ然レモ第二項ノ場合ニ於テハ他ノ裁判所ノ言渡ナルヲ以テ第四百十條ニ列記シタル所ノ原由アル者ハ又再ヒ上告スルコトヲ得ルモノトス

第四百三十五條 法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ定期内ニ上訴スル者ナクシテ其裁判言渡確定シタル時ハ大審院檢察長ヨリ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ

以テ何時ニテモ非常上告ヲ爲スコトヲ得

非常上告アリタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ治罪法中金科玉條ノ最モナルモノナリ

第四百三十六條 左ノ場合ニ於テハ大審院ノ裁判言渡ニ對シ檢察長其他訴訟關係人ヨリ其院ニ哀訴スルコトヲ得

一 大審院ニ於テ前數條ニ定メタル式ヲ履行セサル時

二 訴訟關係人ヨリ申立タル條件ニ付判決ヲ爲サ、ル時

三 同一ノ裁判言渡ニ付キ二箇ノ條件齟齬シタル時

(解釋)大審院ノ判決シタルモノナリト雖モ神ナラヌ人間ノ判決シタルモノナレハ萬一或

ハ確的ヲ缺キ法式ニ適ハサルコトアルナキヲ保シ難シ然ルニ大審院ハ最上ノ法院ニシテ其上

ニ位スルモノナケレハ之ヲ他ニ上訴スルコト能ハス然ラハ泣ク々々其冤枉ヲ忍ハンカ是レ大

ニ法理ニ背戻スルナリ故ニ此場合ニ於テハ其大審院ニ哀訴シ以テ前キノ判決ヲ更改セラレ

ンコトヲ請求スルヲ許セリ

第四百三十七條 哀訴ヲ爲サントスル者ハ裁判言渡アリタルヨリ三日内ニ書記局ニ其申立ヲ爲ス可シ

書記ハ申立書ヲ受取リタルヨリ三日内ニ之ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ同一ノ期限内ニ其答辯書ヲ差出ス可シ

大審院ニ於テハ通常上告ノ規則ニ從ヒ哀訴ノ判決ヲ爲ス可シ
(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百三十八條 大審院ノ裁判言渡ハ其言渡アリタルヨリ三日間又哀訴アリタル時ハ其判決アルマテ執行ヲ停止ス

(解釋)哀訴アリタルノ場合ニ於テハ或ハ前ノ判決ヲ更改スルコトアリ然ラハ前ノ裁判言渡ヲ執行スルモ徒勞ニ屬スルコトナキ能ハス故ニ本條ヲ設ケテ斯クハ規定セリ

○第二章 再審ノ訴 (凡九條)

(解釋)再審ノ訴ハ原裁判ノ誤謬ヲ更改スル非常ノ方法ナリ即チ重罪輕罪ノ刑ノ言渡アリタル時其言渡ニ對シテ上訴ヲ行ヒ盡シ若クハ定期内ニ上訴スルコトナクシテ裁判言渡ノ確定シタル後チ其裁判ノ誤謬ナルコトヲ發見シタルニ因リ被告人ノ利益

ノ爲メニ再ヒ審判アラントテ訴フルモノナリ

第四百三十九條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一 人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其言渡ノ日ニ當リ殺サレタルト認メラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタルノ確証アリタル時

二 同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

三 犯罪アル以前ニ作りタル公正ノ証書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルコトヲ證明シタル時

四 被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

五 公正ノ証書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタル時
(解釋)再審ノ訴ヲ爲スハ必ス被告人ノ利益ノ爲メニスルモノニ限レリ又假令被告人ノ利益

治 罪 法

ノ爲メニスルモノナリト雖本條特ニ重罪輕罪ト記シタルヲ以テ若シ違警罪ノ言渡アリタルノ場合ニ於テハ決シテ之ヲ許サ、ルモノトス而シテ其裁判確定ノ後ニ非レハ之ヲ爲スヲ得スト定メタル所以ノモノハ其裁判確定ノ前ニ在テハ他ニ上訴スルノ途アルヲ以テナリ故ニ再審ノ訴ハ他ノ上訴ノ途既ニ閉塞シタル後ニ非ラサレハ之ヲ爲スヲ得サル者トス

第一人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其言渡ノ日ニ當リ殺サレタリト認メラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタル場合ハ極メテ罕ニ見ル所ナル可シト雖決シテ之レナシトハ斷言スルヲ得ス曾テ佛國ニ於テ其例アリ乞フ之ヲ示サン甲者アリ乙者ヲ毆打シ遂ニ其身體ヲ動スヲ得サルニ至ラシメ而シテ後子之ヲ河流ニ投ス時正ニ暗夜ナリ乙者流失シテ人復タ其所在ヲ知ルヲ得ス其重罪ヲ目撃スル証人乃チ之ヲ官ニ告發ス是ニ於テ百方屍體ヲ索ルニ得ス又乙者ヲ其住所及ヒ其他ノ場所ニ於テ見タル者ナシ然ルニ犯人ハ其罪ヲ首白シ而シテ自ラ其重罪ヲ遂ケタルヲ信セリ此時ニ方リ未タ乙者ノ屍體ヲ發見セス又死没ノ公証ナシ然レモ故殺ノ刑ヲ言渡スニ於テ敢テ妨礙トナルモノナシ然ルニ其後多數ノ日月ヲ經テ始メテ被害者ハ他人ノ救フ所トナリ其傷疵モ亦既ニ痊愈シタルモ行害者ヲ畏懼スルヨリ其住所ニ復歸セサルヲ覺知セリト云フ是レ既ニ死シタリト想フお富トハお

釋迦様ニテモ知ラサルノ類ニテ偶マ亦此ノ如キナキヲ保シ難シ故ニ之ヲ本條ノ中ニ列シタルナリ

第二同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時ハ二個ノ裁判言渡抵觸シ其言渡ヲ受ケタル者ノ中孰レカ一方ノ者ハ無罪タルヲ証スルニ足ル可キヲ以テ再審ノ訴ヲ許セリ

第三犯罪ノ時ニ當リ其場所ニ在ラサルヲ証明シタル場合トハ例ヘハ一月一日東京ニ犯罪アリ而シテ其犯罪ニ付キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者十二月盡日ニ作リタル公正ノ証書ヲ以テ其日長崎ニ在リタル旨ヲ証シタルニ於テハ一月一日東京ニ在ラサルヤ既ニ明瞭ナリ去レハ其犯罪人ニ非ラサルヤ亦知ル可キノミ故ニ此ノ場合ニ於テハ再審ノ訴ヲ許セリ

第四裁判官、檢察官、警察官賄賂ヲ收受聽許シ若クハ怨ヲ狹ミテ被告人ヲ陷害シ或ハ証人、鑑定人、通事詐偽ノ陳述ヲ爲シテ被告人ヲ陷害シ又其他ノ者不實ノ事ヲ以テ被告人ヲ誣告陷害シタルヲ發覺シタルニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アル時ハ乃チ前ノ被告人ノ無罪ナルヲ知ル可シ故ニ此ノ場合ニ於テハ再審ノ訴ヲ爲スヲ許セリ

第五訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アリタルヲ証明シタル時ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル被告人果シ

治 罪 法

テ有罪ナルヤ否ヤ未タ知ル可ラスト雖其裁判ノ言渡或ハ誤謬ナキヲ保シ難シ故ニ此ノ場
合ニ於テハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ許セリ

第四百四十條 再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得可キ者左ノ如シ

- 一 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官
- 二 刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢察官
- 三 大審院檢察長但司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可シ
- 四 刑ノ言渡ヲ受ケタル者
- 五 刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其親屬

(解釋)檢察官ハ固ト求刑ノ職ニ任スル者ナリト雖亦兼テ被告人ヲ保護ス可キノ任アルモノトス故ニ前條ニ定メタル原由アリタル時ハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得又刑ノ言渡ヲ受ケタル者此權ヲ有スルハ固ヨリ當然ノコトニテ敢テ予輩ノ喋々ヲ要セス又刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時其親屬此權ヲ有スルハ其名譽ヲ復センカ爲メナリ昔者佛國ニ加拉スト云フ人アリ一千七百六十一年偶マ其子縊死セリ此子ハ現ニ癡癡病ニ罹レルモノナレハ其死ヤ恐ラクハ自殺ナル可キニ其父加拉ストハ其子ヲ殺害セシモノナリトノ嫌疑ヲ受ケ終ニ審廳ニ拘引セ

ラレタリ然ルニ加拉ストハ其冤ヲ展フルコトヲ得スシテ終ニ無殘ニモ死刑ニ處サレタリ時ニ有名ノ學士勃爾對氏之ヲ聞テ大ニ憤リ精シク其實ヲ探偵シ之ヲ書ニ著ハシ況ニ世間ニ公布セリ是ニ於テ其事タル頗ル有名ト爲リ世人擧ツテ其冤ヲ哀ムニ由リ政府モ亦其遺族ノ情願ヲ聽キ之ヲ放棄ス可ラサルコトニ立チ至リ遂ニ五十人ノ判事ヲシテ之レカ再審ヲ爲サシメタリ然ルニ總テノ證據ヲ吟味シタル後チ以テ前ノ裁判ヲ破棄シ加拉ストハ至ク無罪ナリト裁決セリト云フ假令其人既ニ死刑ニ處セラレタル後チタリト雖亦無罪ノ者ノ名譽ヲ保護シタルハ即チ勃爾對ノ力ナリトテ大ニ時人ノ稱賛ヲ受ケタリ嗚呼名譽ノ爲メニハ生命ヲ顧ミサル者天下往々之レアリ故ニ其刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタリト雖亦再審ノ訴ヲ爲ス權ヲ失ハシム可ラス必スヤ其親屬ニ此權ヲ與ヘサル可ラサルモノトス是レ第五ノ場合ヲ本條ノ中ニ列子タル所以ナリ

第四百四十一條 再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラズ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

(解釋)刑ノ消滅トハ即チ刑ノ滿期、免除、特赦又ハ復權等ニ因テ刑ノ消滅シタル場合ヲ云フナリ然ラハ此等ノ場合ニ於テハ既ニ自由ノ身トナリシ者ナレハ敢テ再審ノ訴ヲ要セサルカ

如シト雖_ニ深ク之ヲ考フル_ル片ハ亦其再審ノ訴ヲ爲サ、ル可_レラサル者アリテ存セリ何ソヤ誤
 謬ノ裁判ナシテ其効力ヲ有セシムルハ正理ノ許サ、ル所ナルヲ以テ假令刑ノ消滅スルモ之
 レカ爲メ誤謬ナル裁判ヲ其儘ニ放棄シ之ヲ黙々不問ニ附スルノ理ナキモノトス又一ニハ名
 譽ハ一種ノ財産ナルヲ以テ其裁判ノ誤謬ナルヲ正ス_ルナケレハ假令刑ハ消滅シテ其身ノ
 自由ヲ得ルト雖_レ其終身ノ營業上ニ大ナル不利益ヲ受クル_ルハ自然ノ勢ニシテ蓋シ免レ
 サル所ナリ好シヤ營業上ニ影響ヲ被ル_ルヲナキモ人ノ名譽ハ至重ノモノニシテ時ニ或ハ生
 命ヨリ貴キ_トアルモノナレハ此ノ名譽ヲ回復スルノ訴ハ實ニ緊要ナルモノトス而シテ名譽
 ナ回復損害スルニニアリ曰ク其一ハ唯名譽ヲ損害スルニ止マルモノ曰ク其二ハ身體ニ刑ヲ
 被ムリ若クハ身體ヲ拘束セラル可_キ刑ノ言渡ヲ受ケタル者未タ其刑ヲ執行セラレサル者自
 ラ併セテ名譽ノ損害ヲ受ケタルモノ即チ是レナリ然ラハ名譽ヲ損害スルノ點ニ就テハ專門
 ニ名譽ヲ損害スルモノ大ニシテ身體ヲ拘束セラル可_キカ爲メ併セテ名譽ヲ損害スルニ至リ
 シモノ小ナルカ否ナ正ニ其反對ノ點ニ在リ故ニ再審ノ訴ハ假令刑ノ消滅スルモノ名譽ノ爲メ
 何時ニテモ之ヲ爲ス_ルヲ得ルモノトセリ

第四百四十二條 再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ原裁判言渡書

ノ謄本及ヒ証憑書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢察官ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ大審院檢察長ニ差出ス可

シ

原裁判所ノ檢察官及ヒ控訴裁判所檢察長自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスル時
 ハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ差出ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百四十三條 大審院ニ於テハ檢察長ノ請求ニ因リ速ニ專任判事一名
 ナシテ其取調ヲ爲シ報告書ヲ差出サシム

(解釋)本條ハ第四百二十三條ト同一主義ニシテ唯々上告ト再審トノ差アルノミ

第四百四十四條 大審院ニ於テハ他ノ事件ヲ閣キ刑事局判事全員會議局
 ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢察長ノ意見書ニ因リ判決ヲ爲ス可シ

(解釋)再審ノ訴ハ一旦裁判ノ確定シタル後ニ於テ起ルモノニシテ其既ニ確定シタル裁判ヲ
 更改スルハ頗ル重大ノ事ニ係リ且ツ刑ノ執行ヲ急速ニ停止スル_ルヲ要スルモノナレハ大審
 院ニ於テハ他ノ事件ヲ閣キ刑事局ノ判事全員會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢察長

ノ意見書ニ依リ判決ヲ爲ス可キモノトス

第四百四十五條 大審院ニ於テ再審ノ原由アルヲ認メタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ附キ再審ヲ爲ス可キヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可シ

其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規則ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ

(解釋)大審院ニ於テ第四百三十九條ニ定メタル原由アルヲ認メタル時ト雖モ自ラ其事件ニ付キ再審ヲ爲サス唯タ原裁判言渡ヲ破毀シタル上ニテ刑ノ言渡ヲ受タル者ナ更ニ被告人トシテ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可キモノトス此場合ニ於テハ私訴ノ言渡ニ付再審ノ請求ナシト雖モ公訴ニ附帶スルノ故ヲ以テ共ニ之ヲ移サ、ル可ラス
大審院ヨリ其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ管轄ニ非ラサルノ言渡ヲ爲スヲ得ス通常ノ規則ニ從ヒ相當ノ裁判ヲ爲シ或ハ無罪ノ言渡ヲ爲シ或ハ法律ニ從ヒ適當ナル刑ヲ言渡ス可キモノトス

第四百四十六條 死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ大審院ニテ再審ノ原由アルヲ認メタル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヲ得ス

原裁判言渡ヲ破毀ス可シ

(解釋)刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル後其親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テハ其死者ヲ更ニ被告人トシテ他ノ裁判ニ移スヲ得ス故ニ唯タ原裁判言渡ヲ破毀スルノミニ止マルモノトス是ニ於テ死者ハ一徳アリ何ソヤ生人ニ在テハ假令大審院ニ於テ再審ノ原由アルヲ認メ以テ原裁判言渡ヲ破毀スルモ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可キモノトシ又其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規則ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可キニ付キ時ニ或ハ無罪ノ罪ヲ爲ス可キモ又或ハ多少ノ刑ヲ言渡スヲアリ然ルニ死者ニ在テハ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ大審院ニテ再審ノ原由アルヲ認メタル時ハ大審院直チニ原裁判言渡ヲ破毀シ以テ次條ニ從テ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ揭示公告ス可キモノトスルヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ其死者ハ無罪ナルノ感覺ヲ世人ノ惻裡ニ與フルナリ生人ニ在テハ假令大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀スルモ未タ以テ有罪ナルカ將タ無罪ナルカ判ス可ラサルニ死者ニ於テハ一旦大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀スルハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メナリトテ其言渡書ヲ揭示公布セラレ以テ世人ヲシテ無罪ナリト認メシムルハ實ニ死者ノ爲メニ大ナル僥倖ト云フ可シ民間ノ風俗食事ニ於テ始メ父ニ供シテ其レヨリ母

兄弟姉妹ト順次ニ移ルヲ禮トスルモ其末妹一旦黃泉ノ客トナルニ於テハ食事ニ於テ父ヨリ先キニ供スルモノトス是レ其事柄ヲ異ニスト雖モ其旨蓋シ此等ノ理ナラン耶
第四百四十七條 再審ノ裁判ニ因リ無罪ノ言渡アリタル時又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタル時ハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ揭示公告ス可シ

(解釋)本條ニ於テハ再審裁判ニ因リ無罪ノ言渡アリシ者ト前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリシ者即チ其實未タ有罪ナルカ將タ無罪ナルカ遽ニ以テ判ス可ラサル者トテ取扱フニ同一ノ手續ニ因リ共ニ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ揭示場ニ貼付シ且ツ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告ス可キモノトス是レ遽ニ之ヲ考フレハ大ニ公平ヲ失シタルカ如シト雖モ深ク之ヲ考フルニ於テハ宜シク亦然ラサルヘカヲサルモノアリテ存セリ何ソヤ死人ニ口ナシ故ニ死人ニハ務メテ保護ヲ與ヘサレハ動モスレハ冤枉ニ陷ルヲ免レサルモノナリ夫レ大審院ニ於テ再審ノ原由アルヲ認メ以テ原裁判言渡ヲ破毀スルニ於テハ十二八九ハ無罪ナル者ナル可ケレハ彼此同一ノ取扱ヲ爲スモ敢テ不公平ニ非ラサルヲ知ル可シ況ンヤ無罪ノ言渡ト破毀ノ言渡トナ明記スルニ於テチヤ焉ソ其レ不公平ナランヤ又況ンヤ其被告人ノ生存シタラン

ニハ充分ナル無罪ナル言渡ヲ受ケ以テ眞ニ名譽ヲ回復スルヲアランモ亦タ知ル可ラサルニ於テチヤ否ナ多クハ無罪ノ言渡ヲ受ク可キモノナルニ不充分ナル原裁判言渡ノ破毀ニ止マルハ實ハ死者ニ於テ遺憾ニ想フ所ナラン然ラハ本條ニ於テ彼此同一ノ取扱ヲ爲スハ大ニ其當ヲ得タルモノト謂フ可シ

○第三章 裁判管轄ヲ定ムルノ訴 (凡三條)

(解釋)本章ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百四十八條 通常裁判所ト特別裁判所トヲ問ハス管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタル時又忌避ノ原由若クハ非常ノ事變ニ因リ訴訟事件ヲ管理スルヲ能ハサル時ハ檢察官其他訴訟關係人ヨリ裁判管轄ヲ定ムル訴ヲ爲スヲ得

大審院檢察長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲スヲ得

(解釋)通常裁判所トハ高等法院及ヒ控訴裁判所、重罪裁判所、輕罪裁判所、違警罪裁判所ノ謂ヒニシテ特別裁判所トハ陸海軍裁判所ノ謂ヒナリ而シテ非常ノ事變トハ戰爭又ハ傳染病流行ノ際ヲ云フナリ

第四百四十九條 裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ訴訟書類ヲ添ヘ之ヲ大審院ノ書記局ニ差出ス可シ

(解釋)裁判管轄ヲ定ムルノ訴ハ最モ迅速ヲ要スルモノナルヲ以テ直チニ大審院ノ書記局ニ其趣意書ヲ差出ス可キモノトス

第四百五十條 大審院ニ於テハ刑事局判事五名以上會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢察長ノ意見書ニ依リ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ判決シ其事件ヲ管理ス可キ裁判所ヲ定示ス可シ

(解釋)大審院ニ於テハ訴訟ニ關スル一切ノ書類ニ依リ犯罪ノ性質、種類、場所及ヒ被告人ノ身分ニ付キ管轄ナル裁判所ヲ定示シ以テ其事件ヲ移スモノトス故ニ前ニ管轄ニ非ラサルノ言渡ヲ爲シタル裁判所ト雖モ法律ニ從テ管轄ナルニ於テハ本案ノ事件ヲ移シテ更ニ裁判ヲ爲サシム可キモノトス然レモ若シ其裁判所ノ法官盡ク忌避セラレ又ハ非常ノ事變ニ依リ其事件ヲ管轄スルコト能ハサル場合ニ於テハ其裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ヲ定示ス可キモノトス

○第四章 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴 (凡九條)

(解釋)本章ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百五十一條 犯罪ノ性質被告人ノ身分員數地方ノ民心其他重大ナル事情ニ因リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐アル時ハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

(解釋)重罪又ハ輕罪ヲ犯セシ地方ニ於テ被告人ニ傾意スル激烈ナル朋黨アリ又ハ宿怨凝結スルノ敵黨アルコトナキニ非ラス國事犯ノ如キハ犯罪ノ地ニ於テ未タ其住民熱心ノ冷却セサルニ當リ其地ニ於テ之ヲ裁判スル時ハ頗ル危險ニ涉ルコト寡カラス又被告人ノ數極メテ多ク若クハ其黨類朋友多衆ナルカ或ハ匪黨ニ對シ良民ノ憤怒未タ解ケサルコトアル可シ是ヲ以テ犯人ヲ強奪シ或ハ其處刑ヲ急ニシ及ヒ其罪ヲ加重セシメンカ爲メ暴行ヲ爲スノ恐レアリ故ニ詞訟ヲ妨害スル者ナカラシメ以テ充分ナル靜穩自由ヲ法廳ニ保シ以テ世論ニ拘ハルコトナカラシムルハ實ニ緊要ノコトナリ是ヲ以テ此ノ如キ場合ニハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得ルモノトス

第四百五十二條 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ司法大臣ノ命ニ因リ大審院檢察長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

(解釋)本條ハ公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲ス可キ者ヲ定メタルモノニシテ敢テ贅解ヲ要セス

第四百五十三條 大審院ニ於テハ會議局ニテ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クヲナク速ニ前條ノ訴ヲ判決スヘシ

(解釋)公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ要スルニ行政上ノ處分ニ屬シ且ツ固ト訴訟關係人ニ其訴ヲ爲スヲ得ル權ヲ與ヘサルヲ以テ大審院ニ於テハ其訴訟關係人ノ申立ヲ聽クヲナク會議局ニ於テ速ニ其訴ヲ判決スルモノトス

第四百五十四條 被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルヲ能ハサルノ恐アル時ハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヲ得

(解釋)被告人ノ身分貴顯巨商土豪ナルカ地方ノ民心穩カナラサルカ又ハ犯罪ニ因リ損害ヲ被ムリタル者其地方ニ多キ等ノ原由ニ因リ假令裁判ニ對シ紛擾危險ヲ生スルノ恐レナシト雖モ裁判公平ヲ維持シ難キノ嫌疑アル時ハ其裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スヲ得ルモノトス

第四百五十五條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ヲクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタル時ハ前項ノ訴ヲ爲スヲ得ス

(解釋)裁判ニ對シ紛擾危險ヲ生スルノ妨礙ヲ除去シ以テ公安ヲ謀ルハ蓋シ政府ノ任ナリ故ニ公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ司法大臣ノ命令ニ因リ大審院ノ檢察長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可キモノ、スレモ裁判官公平ヲ維持シ難キノ嫌疑アルヤ否ヤニ付テハ司法大臣ノ親シク知り得可キ所ニ非ノス故ニ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ其公平ナル裁判ヲ受クルニ付キ直接ノ利益ヲ有スル者即チ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟關係人ヨリ之レヲ爲ス可キモノトス

第二項ノ場合ニ於テハ被害者甘ンシテ其裁判ヲ受ケンヲ承諾シタルモノト認ムルカ故ニ前項嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スヲ得サルモノトス

第四百五十六條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニハ其趣意書ニ一通ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ其送達アリタルヨリ三日内ニ

答辯書ヲ差出スヲ得

(解釋)嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニ就テハ之レカ對手人ニ於テハ費用ヲ増シ時日ヲ消スル等大ニ損害ヲ被ムルノ恐レアルモノナルヲ以テ其趣意書一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ送達アリタルヨリ三日内ニ答辯書ヲ差出スヲ得ルモノトセリ

第四百五十七條 大審院ニ於テハ第四百五十條ノ規則ニ從ヒ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

(解釋)本條ハ唯タ讀者ノ參看ヲ要スルノミ

第四百五十八條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴アリタル時ハ裁判所ニ於テ其訴訟手續ヲ停止ス

(解釋)檢察官其他訴訟關係人ヨリ嫌疑ノ爲メ管轄ヲ移スノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ其訴若シ果シテ理由アル時ハ大審院ニ於テ他ノ裁判所ヲ定示ス可キニ因リ原裁判ニ於テハ大審院ノ判決アルマテ姑ク訴訟手續ヲ停止セサル可ラサルモノトス是レ訴訟手續ヲ繼續スルモ到底無効ニ屬スルコトアル可キヲ以テナリ

◎第六編 裁判執行復權及ヒ特赦 (凡三三章)

(解釋)本編分ツテ三章ト爲ス即チ裁判執行ヲ以テ第一章ト爲シ復權ヲ以テ第二章ト爲シ特赦ヲ以テ第三章ト爲ス

○第一章 裁判執行 (凡十一條)

(解釋)裁判執行トハ裁判言渡既ニ確定シタル上ニテ刑ヲ實行スルヲ云フナリ

第四百五十九條 重罪輕罪違警罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可ラス

(解釋)刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之レヲ執行ス可ラサルコト重罪、輕罪、違警罪與ニ同シキ所ナレ_レ其所謂裁判確定トハ三罪何レモ其日ヲ異ニス此事ニ就テハ予輩刑法第五十條ノ下ニ解シタル所モアレ_レ本條ニ於テハ頗ル必要ナルコトニ付キ復タ少シク解スル所アラントス重罪ニ付テハ其裁判ニ不服ナリト雖_レ其上ニ位スル控訴裁判所ナキヲ以テ其不服ヲ訴フルハ獨リ上告ノ途アルノミ故ニ其原裁判ヲ不服ナリトシテ上告期限即チ裁判言渡アリシヨリ三日内ニ上告シタル時ハ其再度ノ裁判言渡ヨリ三日ヲ經過シテ始メテ刑ヲ執行スルモノトス_レ若シ上告ナキ_レハ其裁判言渡アリシヨリ唯タ其上告ノ期限三日ヲ經過ス_レハ則チ裁判確定シタルニ付其刑ヲ執行スルモノトス故ニ重罪ニ付キ裁判確定トハ通常裁判言渡アリ

シヨリ三日ヲ經過シ四日目ノ日ナリト知ル可シ

輕罪ニ付テハ原裁判ヲ不服ナリトセハ即チ五日内ニ控訴スルコトヲ得故ニ通常裁判言渡アリシヨリ控訴期限五日ヲ經過シテ六日目カ即チ裁判確定ノ日ナリ然レトモ若シ又其後上告アリタル時ハ裁判言渡アリシヨリ上告期限三日ヲ經過シテ四日目ノ日カ即チ裁判確定ノ日ナリ故ニ輕罪ニ付キテハ或ル場合ニ於テハ裁判言渡アリシヨリ五日ヲ經過シ六日目ヲ以テ裁判確定ノ日ト爲シ又或ル場合ニ於テハ裁判言渡アリシヨリ三日ヲ經過シ四日目ヲ以テ裁判確定ノ日ト爲セリ

違警罪ニ付テハ明治十四年第四十四號ニテ「總テ上告(按スルニ上訴ノ意ナラン)ヲ許サルヲ以テ言渡ヲ爲ス時ハ即時ニ確定スルニ付キ直チニ之ヲ執行ス可キ」旨ノ公布アリ故ニ違警罪ハ裁判言渡ノ日カ即チ裁判確定ノ日ト知ル可シ

刑法第五十條ニ曰ク「刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス」ト今本條ト參看スルニ其文面少シク異ナルモ其意義同一ニシテ敢テ寸毫ノ異ナル所ナシ故ニ重複ニ似タリト雖モ決シテ然ラス彼レハ刑期計算ニ付テ必要ナルニ因リ之ヲ設ケタルモノニシテ此レハ裁判執行ニ付テ必要ナルニ因リ之ヲ定メタルモノナリ然ラハ其旨同シキモ其之ヲ用キ

ル所以ニ至テハ大ニ異ナレリ且ツ夫レ刑法ト治罪法ト其律ヲ別ニスルヲ以テ彼此同一ノ旨意ヲ載スルモ敢テ重複ナラサルヲ知ル可シ

第四百六十條 死刑ノ言渡確定シタル時ハ檢察官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ司

法大臣ニ差出ス可シ

司法大臣ヨリ死刑ヲ執行ス可キノ命令アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲ス可シ

(解釋)死刑ハ他ノ刑ト異ニシ一旦執行シタル以上ハ裁判ニ錯誤アルモ決シテ之ヲ挽回ス可ラサルモノナルヲ以テ務メテ鄭重ニ鄭重ヲ加ヘテ他ノ刑ノ如ク裁判確定シタルノ日ヲ以テ直チニ之ヲ執行スルコトナク檢察官ヨリ一切ノ訴訟書類ヲ司法大臣ニ差出シテ其命令ヲ待ツ可キモノトス

司法大臣ハ訴訟書類ヲ檢閲シタル上ニテ特赦ヲ爲ス可キ者ト思料シタル時ハ速ニ其旨ヲ上奏シ否ナル時ハ訴訟書類ト共ニ執行命令書ヲ檢察官ニ送致シ三日内ニ死刑ヲ執行セシムルモノトス但シ死刑ヲ執行スルハ午前第十時ヲ過ク可ラサルモノトス刑法第十三條ニ曰ク「死刑ハ司法大臣ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス」ト今本條ハ此効果ナリ

第四百六十一條 死刑ヲ除クノ外刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之レヲ執行ス可シ

(解釋)本條ハ第四百五十九條ノ裏面ヨリ云ヒシモノニシテ彼ノ條アル以上ハ敢テ必要ナラサルカ如シト雖モ抑モ亦其然ラサル可ラサル所以ノモノアリテ存スルナリ何ソヤ前條特ニ死刑執行ノミニ就テ其手續ヲ設ケラレタレハ勢ヒ其他諸刑執行ノ期ヲ定メサル可ラサルモノトス且ツ夫レ第四百五十九條ハ「裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可ラス」ト其執行ノ始メテ制限シタルニ止マリ未タ其執行ノ終リ即チ其執行ノ日ハ是ヨリ後ニス可ラスト云フ制限ノナキモノナレハ宜シク之レカ制限ナカル可ラサルモノトス今本條ハ「刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之ヲ執行ス可シ」ト云フニ在ルヲ以テ其執行ノ是レヨリ後ニス可ラスト云フ終リテ制限シタルモノナリ故ニ彼ノ條ハ執行ノ始メテ制限シ此ノ條ハ其終リテ制限シタルモノナレハ彼此兩條アリテ始メテ首尾全キ法律ト云フ可シ是ニ由テ之ヲ觀レハ本條ノ必要ナル亦知ル可キナリ

第四百六十二條 刑ノ執行ハ原裁判所ノ檢察官又ハ大審院ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ依リ之ヲ爲ス可シ

罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ハ檢察官ノ命令書ニ依リ之ヲ徵收ス可シ
破壊又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢察官之ヲ處分ス可シ

△參看 明治十四年十二月司法省丁第貳拾五號達

治罪法第四百六十二條第二項罰金科料費用及ヒ沒收物品ノ徵收ハ書記局ニ於テ之レヲ擔當シ會計主任ヘ引渡ス儀ト可心得此旨相達候事

△明治十五年三月六日司法省丙第八號達

處刑宣告ノ後犯人ヲ司獄官ヘ護送セシムル際ニ於テハ監獄則ニ從ヒ檢察官ヨリ右宣告書ノ謄本ヲ司獄官ヘ送達スル儀ト心得可シ此旨相達候事

(解釋)第三十四條第三ニ曰ク「裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス」ト今本條ハ其詳細ヲ定メタルモノナリ

第四百六十三條 死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末書ヲ作り刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印ス可シ

其他刑ノ執行ニ關スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

(解釋)刑法第十一條ニ曰ク「刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之

治 罪 法

ヲ定ムルト今本條モ亦刑ノ執行ニ關スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムルノ旨ヲ記載ス其所謂別ノ規則トハ監獄則チ指スナリ

第四百六十四條 裁判言渡確定シ又ハ闕席裁判アリタル時ハ其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記既決犯罪表ヲ作り左ノ條件ヲ記載ス可シ但大審院ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其執行ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ル可シ

一 犯人ノ氏名年齢職業住所及ヒ出生ノ地

二 罪名刑名

三 再犯

四 裁判言渡ヲ爲シタル年月日

五 對審裁判又ハ闕席裁判

△參看 明治十五年三月廿九日司法省乙第拾九號達

明治十一年當省丁第二十七號達新聞紙條例及讒謗律犯者表雛形別紙之通改正候條右ニ照準年兩度ニ取調前季(自一月至六月)分ハ七月十五日限リ

後季(自七月至十二月)分ハ翌年一月十五日限リ可差出尤犯者無之向ハ其段可届出此旨相達候事但シ管轄治安裁判所ノ分ハ本廳へ取纏メ可差出事

凡 例

一 本表ハ集會條例新聞紙條例ヲ以テ處斷シ及ヒ新聞紙雜誌雜報ノ記事ヨリ起リ或ハ公然演說ヲ爲シタル刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ヲ記入ス

一 所犯新法頒布以前ニ在テ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ニ從テ處斷シタル者ハ本表記載ノ例ニ倣ヒ記入ス可シ

一 數罪俱發シ一ノ重キヲ以テ論シ其餘罪ノ輕クシテ論セサル者モ本表記載ノ例ニ準シテ一々記載ス可シ

一 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ若クハ等シクシテ論セス或ハ重クシテ更ニ論シタル者ハ各々本表刑名ノ區畫中ニ記載シタル例ニ倣ヒ記入ス可シ

一 上告ニ係ル者ハ其上告ニ拘ハラヌ原裁判所ノ刑名ヲ記入ス但シ大審

治 罪 法

院ノ表ハ此例ニ在ラス

(雛形略ス)

一 公然ノ演説上ヨリ起リ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ハ本表新聞名ノ欄内ヘ其社名ヲ書シ若シ社名アラサル者ハ其理由ヲ記入ス可シ

(解釋)本條ハ參看達ヲ以テ其手續既ニ必明瞭ナレハ敢テ贅釋ヲ施サス

第四百六十五條 既決犯罪表ハ二通ヲ作り一通ヲ司法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

違警罪ノ既決犯罪表ハ一通ヲ作り其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

(解釋)既決犯罪表ハ犯人ノ再犯ヲ容易ニ確知センカ爲メ豫メ作ル所ノモノナリ而シテ重罪

輕罪ハ苟モ一ノ裁判確定シタル後ニ又一罪犯スニ於テハ必ス再犯ヲ以テ論ス可キモノナル

ニ付キ二通ヲ作り一通ヲ司法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置シ以テ他口ノ考証

ト爲セリ然ルニ違警罪ニ付テハ一年內同一ノ違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ再ヒ犯スニ非

テサレハ再犯ヲ以テ論ス可ラサル者ナルニ因リ敢テ二通ヲ作り一通ヲ司法省ニ送致スルノ

必要ナシ故ニ唯タ一通ヲ作り其裁判所ノ書記局ニ藏置スルニ止マルモノトス

第四百六十六條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ノ條件ニ付キ疑義ノ申立

又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ

(解釋)刑ノ言渡既ニ確定シタル後ト雖モ亦裁判所ノ判決ヲ要ス可キ疑義ノ生スルコトアリ例

ヘハ刑ノ種類果シテ如何又其輕重長短果シテ如何ナルヤヲ裁判言渡書中ニ明示セサルニ因

リ其言渡ヲ受ケタル者ヨリ疑義ノ申立ヲ爲シ若クハ其執行ヲ肯セサルノ類是レナリ其言渡

書ニ記載スル所ノモノ、果シテ如何ナル意ナルヤハ固ヨリ以テ他ノ裁判所ノ知ル可キ所ニ

非ラサルヲ以テ其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決セシムルモノトス

第四百六十七條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於

テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ送致ス可シ

裁判所ニ於テ本犯ナルコトヲ認定スルコト能ハサル時ハ事實參考ノ爲メ曾テ其事件ニ干預シタル裁判官檢察官書記又ハ原被告人ノ証人ヲ呼出スコトヲ得

(解釋)人違ナルカ否マ原裁判所ニ非ラサレハ以テ之ヲ知ルコト能ハス故ニ若シ本條ノ場合ニ

於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ原裁判所ニ送致ス可キモノトス若シ其レニテモ尙ホ認定

スルコト能ハサル時ハ後項ニ記載スル所ノ人々ヲ呼出シ以テ之ヲ認定セシムルモノトス然レ

凡本人強ヒテ否ラスト云ハ、以テ其原籍住所ニ送致シテ精シク尋問スルヲ必要トスルナリ
 然ラサレハ或ハ惹迷斯克勞ノ冤枉ナキヲ保シ難シ乞フ左ニ克勞カ冤枉ニ陥リシ慘狀ヲ示シ
 以テ其元籍住所ニ送致シテ精シク尋問セサル可ラサル所以ヲ証セン
 昔者英吉利、約克州ニ一個ノ酒屋アリ主人ハ婦人ニシテ的馬斯及的勒ナル一小厮ヲ使フ及
 的勒一日主人ノ秘藏スル金函ヲ擊碎シテ其内ヨリ若干金圓ヲ奪掠シテ愛耳蘭土ニ逃亡セシ
 ニ不幸ナル哉克勞ナル者其後凡ソ一年ヲ過キ他州ヨリ約克州ニ漂泊シ來リ桃夫ト爲テ生計
 ヲ營ミシニ此地ニ在ルヲ未タ數日ヲ出テサルニ其容貌ノ恰モ能ク及的勒ニ似タルノ故ヲ以
 テ忽チ前年ノ賊ト誤認サレ衆人モ亦渠レヲ呼フニ及的勒ノ名ヲ以テスルヨリ終ニ其罪ニ陷
 ラレテ死刑ニ處セラレタリ（唯タ金圓ヲ奪掠シタルノ罪ヲ以テ死刑ニ處セラレタリトハ少
 シク疑フ可キニ似タレ居當時半開ノ法律或ハ然リシナラン）然ルニ及的勒ハ又愛耳蘭土ニ
 於テ惡業ヲ爲シ忽チ其罪發覺シ大伯林府ニ於テ逮捕サレ審判ノ末遂ニ死刑ニ處セラレタル
 ニ恰モ好シ其刑場ニ臨ミシ傍觀者ノ中約克州ノ人ニテ嘗テ能ク及的勒ヲ知ル者アリテ爰ニ
 始メテ克勞ノ冤枉ナルヲ發覺セリト云フ當時克勞ハ其及的勒ト云フ者ニ非ラルヲナ續サ
 々陳辯シタレハ萬人皆ナ及的勒ナルヲ認メタルニ因リ法官モ終ニ及的勒ト認メ以テ死刑

ヲ宣告セシモノナリト是ニ於テ此ノ如キ場合ニ於テハ原籍住所ニ送致シテ精シク尋問スル
 ノ甚タ必要ナルヲ知ル可シ若シ克勞ノ及的勒ト云ヘル者ニ非ラサル旨ヲ述ヘタル時其原籍
 住所ニ送致シ以テ精シク尋問シタランニハ決シテ無辜ノ良民ヲ冤枉ニ陥ルノ不幸ナカリシ
 ナル可キニ悲イ哉事此ニ出テスシテ彼レニ出テ衆人カ及的勒ト認メタルノ故ヲ以テ遽カニ
 之ヲ死刑ニ處シタルハ實ニ法官ノ手落ト謂ハサルヲ得サルナリ又昔佛國ニ達路撒的ナル者
 アリ拉波爾的ノ偽名ヲ以テ三人ト共ニ惡業ヲ爲セシニ同國人ニテ約色弗撒爾克ナル者ア
 リ容貌ノ達路撒的ニ伯仲セルヲ以テ終ニ冤枉ニ陥リ死刑ニ處セラレタリ是レ其死刑ニ處セ
 ラレタルノ日ハ實ニ一千七百九十七年三月十日ノナリ是レ亦其原籍住所ニ就テ精シク尋
 問セサルノ誤チナリ豈ニ其レ察セサル可ケンヤ
 第四百六十八條 前二條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者
 ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判言渡ヲ爲ス可シ但其言渡ニ對シテハ
 上訴ヲ許サス
 (解釋)本條ハ通常ノ裁判トハ異ナルヲ以テ上訴ヲ許サ、ルモノトス
 第四百六十九條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還ス可キ裁判費用ニ付キ其言
 渡ノ施行ハ通常民事ノ規則ニ從フ
 (解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

○第二章 復権 (凡七條)

(解釋)復権トハ重罪ヲ犯シ因テ公權ヲ剝奪セラレタル者ヲシテ將來ノ權ヲ復セ今
ムルヲ云フ刑法第一編第二章第八節ノ復権ハ其効果及ヒ之ヲ願フノ期限ヲ定ムシ
本章ノ復権ハ請願及ヒ之ヲ許否スルノ手續ヲ定メタルモノナリ

第四百七十條 復権ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限經過シタル後
刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法大臣ニ之ヲ爲ス可シ
復権ノ願書ニハ本人署名捺印シ現ニ住スル地ノ始審裁判所檢事ニ之ヲ差
出ス可シ

(解釋)復権ノ請願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限即チ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經
過シタル後チ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法大臣ニ之ヲ爲ス可キモノトス
第二項ノ明文「現ニ住スル地ノ始審裁判所檢事云々」トアルヲ以テ嘗テ刑ノ言渡ヲ受ケタル
裁判所ナルト否トニ拘ハラズ本人ノ現ニ住居スル地ノ始審裁判所檢事ニ差出ス可キモノト
スルナリ

第四百七十一條 復権ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

- 一 裁判言渡書ノ謄本
- 二 主刑ノ滿期特赦又ハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類
- 三 假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタルノ証書

四 賠償及ヒ裁判費用ヲ辯濟シ又ハ其義務ヲ免カレタルノ証書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

(解釋)復権ハ彼ノ期滿免除ノ如ク若干ノ星霜ヲ經過セハ以テ其權利ヲ得可キモノニ非ラス
固ト願ニ因テ許スモノナリ然ルニ司法大臣ハ固ト犯人ヲ取調タル者ニ非ラサルヲ以テ書面
ニ因ルニ非ラサルヨリハ其復権ヲ許ス可キ者ナルカ否之ヲ知ルニ由ナシ故ニ復権ノ願書ニ
ハ本條ニ記載シタル書類ヲ添フ可キモノトス

第四百七十二條 檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ
意見書ヲ添ヘ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

(解釋)復権ノ願ハ唯タ書ニ因テ以テ之ヲ許否スルモノナレハ固ヨリ本條ノ手續ナカル可カ
ラサルモノトス

第四百七十三條 檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復権ノ願ニ關スル書類
ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

(解釋)司法大臣ト雖ヒ神ナラヌ者ナレハ唯タ本人ノ願書ニ因テ以テ其復権ヲ許否スルハ頗
ル難シトスル所ナリ故ニ前條ヨリ本條ト順序ニ其意見書ヲ差出サシメ以テ之レカ許否ヲ決
スル參考ト爲スモノトス

第四百七十四條 司法大臣ハ復権ノ願ニ關スル書類ヲ檢閲シ其願ヲ允許
ス可キ者ト認メタル時ハ速ニ上奏ス可シ

(解釋)刑法第六十五條ニ曰ク「復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラス」ト是レ本條ノ因テ起ル所ナリ

第四百七十五條 勅裁又ハ司法大臣ノ意見ニ因リ復權ノ願ヲ棄却シタル時ハ司法大臣ヨリ其旨ヲ控訴裁判檢察長ニ通知シ檢察長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢察事ニ通知ス可シ
前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スコトヲ得ス
更ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規則ニ從フ

(解釋)司法大臣ニ於テ復權ノ願ヲ允許ス可キ者ト認メ上奏シタルニ勅裁ニ因リ其願ヲ棄却シタルハ又ハ司法大臣ニ於テ未タ其願ヲ允許ス可ラサル者ト認メタルニ由リ其願ヲ棄却シタルトキハ本條ノ手續ヲ爲スモノトス然レモ將來再願スルコトヲ禁スルコトナシ是レ刑ノ言渡ヲ受ケタル者善ニ化スルノ路ヲ梗塞ス可キノ理ナキヲ以テナリ去レト再願ハ其棄却セラレタルヨリ二年半ヲ經過シタルノ後ニ非ラサレハ之レヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第四百七十六條 復權ノ裁可アリタル時ハ司法大臣ヨリ其裁可狀ヲ控訴裁判所檢察長ニ送致シ檢察長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢察事ニ送致ス可シ
檢察ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ

又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ裁判言渡書ニ記入ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

○第二章 特赦 (凡四條)

(解釋)本章ハ敢テ解釋ヲ要セス
第四百七十七條 特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法大臣ニ申立ツルコトヲ得
監獄長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ス時ハ檢察官ヲ經由ス可シ但檢察官ハ意見書ヲ添フ可シ

特赦ノ申立アリタル時ハ司法大臣ヨリ其書類ニ意見書ヲ添へ上奏ス可シ
(解釋)彼ノ復權ハ司法大臣其許否ヲ認定シ其果シテ允許ス可キ者ト認メタルハ上奏ス可キモ其未タ允許ス可ラサル者ト認メタル時ハ上奏セスシテ直チニ其旨ヲ控訴裁判所檢察長ニ通知スルヲ以テ規則トスレバ此特赦ニ於テハ司法大臣ノ許否ヲ認定スルヲ許サス其許否ス可キト否トニ拘ハラス都テ上奏ス可キモノトスルナリ而シテ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得可キ者ハ檢察官監獄長及ヒ司法大臣ノ三者トシテ敢テ本人ノ申立ヲ爲スコトヲ許サハルナリ

第四百七十八條 司法大臣ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得死刑ヲ除ノ外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

(解釋)第一項ハ敢テ解釋ヲ要セス第二項死刑ヲ除クノ外他ノ刑ハ何等ノ刑ナリト雖モ一旦執行シタルノ後之ヲ特赦スルコトヲ得可キヲ以テ特赦ノ申立アリタリト雖モ決メ其刑ノ執行ヲ停止セス然ルニ獨リ死刑ハ一旦之ヲ執行シタル以上ハ復タ再ヒ活ス可ラサルモノナレハ假令特赦ノ裁可アルモ亦之ヲ如何ニスル能ハス故ニ獨リ死刑ハ其執行ヲ停止スル者トス

第四百七十九條 特赦ノ申立棄却アリタルキハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ其旨ヲ通知ス可シ

(解釋)本條ハ敢テ解釋ヲ要セス

第四百八十條 特赦ノ裁可アリタルキハ司法大臣ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ特赦狀ヲ送致ス可シ此場合ニ於テハ第四百七十六條ノ規則ニ從フ

△參看 監獄則

第二十五條 特赦アリタルキハ速カニ其旨ヲ内務大臣ニ申報ス可シ

第二十六條 特赦ヲ受ケタル者アル時ハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示ス可シ

(解釋)本條ハ治罪法全編ノ獲麟ナリ而シテ治罪法ハ譬ヘハ猶ホ實物ニシテ予輩ノ解釋ハ譬ヘハ尙ホ虛影ナリ既ニ實物茲ニ盡ク故ニ予輩ノ解釋モ亦從テ茲ニ盡クルモノトス

治罪法解釋終

附 錄

獄監則

◎第一編(凡三章)

◎第一章 汎則(凡七條)

附

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スル者ニシテ未決者ヲ一時留置スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルコトヲ得

二 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス

三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス

四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘留スルノ所トス

五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス

六 集治監 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者ヲ集治スルノ所トス

北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治ス

第二條 監獄ハ内務大臣ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スル者ハ此限ニ在ラス

錄

第三條 集治監ハ内務大臣之ヲ直轄ス留置場監倉懲治場ハ警視總監又ハ府知事（東京府ヲ除ク）縣令之ヲ管理ス

第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處ス可キ者ニ適用スルヲ得ス

第五條 内務大臣ハ毎年其所屬官吏ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシム可シ

警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄ヲ巡閱ス可シ

裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉ヲ巡閱ス可シ

府縣會議員ハ臨時其府縣監獄ヲ巡閱スルヲ得

第六條 在監人ト稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第十九條第三十條ニ記載シタル者ヲ云フ

第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ苦情ヲ訴ヘントスル時ハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルヲ得

〇第二章 監署ノ規程（凡二十八條）

第八條 司獄官吏在監人ヲ管束スルハ一ニ和平ヲ秉リ罰例ニ照シテ犯則者ヲ決責スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス

第九條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外ヲ視察シ或ハ物件ヲ査閲シ其他囚徒ノ傲情ヲ生

シ脱越等ノ事ナカラシムルヲ要ス

第十條 新ニ入監スル者アル時ハ典獄先ツ拘引狀拘留狀及監狀又ハ所刑ノ宣告書等ノ文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領収ノ証ヲ引致シ來タル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス

未決者ノ中共犯人アル時ハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス

已決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十一條 入監ノ婦女乳兒（二歳未満）ヲ携帯セント請フ者アル時ハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アル時ハ名籍ノ様本ニ照シ其要項ヲ詳録シ一小房内ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舎ニ入ル時モ亦同シ

第十三條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗シテ危險ノ虞アル者ハ一切之ヲ禁ス可シ

第十四條 總テ入監人ノ携存スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々証印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際陰匿セシ貨物ハ沒收ス

附

錄

若シ其設置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フ時ハ之ヲ許ス
 第十五條 在監人書籍ヲ看ント請フ時ハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スル者ヲ除キ修身又ハ
 營業ニ必要ナル者ノミヲ許ス可シ
 第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス
 一 十六歳未満ノ者ト滿十六歳以上ノ者
 二 滿十六歳以上二十歳未満ニシテ再犯以上ノ者ト全上ノ年齢ニシテ初犯ノ者
 三 初犯ノ者ト再犯以上ノ者
 第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フ
 可シ但着衣ノ外襟ニ白布ヲ縫着シ其番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎ニ皂布ヲ以テ覆面シ常眼
 ノ所ニ小孔ヲ穿チ其犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム
 第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ル時ハ第二十
 條第一項ノ例ニ照シテ處分ス可シ
 矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ル可キ者ノ年齢ハ滿八歳以上滿二十歳以下ヲ限トス
 第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

附

錄

一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘡癩者
 二 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入レタル者
 第二十條 前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戸長ノ証票ヲ具スルニ非レハ入場ヲ許サス但シ
 在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過クルヲ得ス
 入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舎ニ帶往セント請フ時ハ其情狀ニ由リ之
 ヲ許ス可シ
 第二十一條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス
 一 十六歳未満ノ者ト十六歳以上ノ者
 二 滿十六歳以上二十歳未満ニシテ再ヒ懲治場ニ入リシ者ト同上ノ年齢ニシテ初テ入場スル
 者
 第二十二條 在監人ヲ他監ニ移ス時ハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及ヒ領致ノ貨
 物ヲ具シテ送致ス可シ其發遣ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述ノ典獄ニ知會ス可シ在
 監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ別ク可シ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス
 第二十三條 典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシメ賞罰ヲ行フノ考據ト

爲ス可シ

第二十四條 賞表ヲ與ヘタル時ハ賞譽簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ褫奪シタル時ハ之ヲ刪除ス可シ但其賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ル可シ

第二十五條 特赦アリタル時ハ速ニ其旨ヲ内務大臣ニ申報ス可シ

第二十六條 特赦ヲ受タル者アル時ハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示ス可シ

第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ其証票ヲ與ヘ警察遞傳ヲ以テ其居住セントスル地ニ押送ス可シ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ録シテ共ニ其地ノ警察官(治罪法第六十條第二項ニ記載シタル官吏)ニ送致ス可シ

第二十八條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スル時ハ召喚スルヲ得

第二十九條 在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者ト爲ス傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其用務

ヲ繼續セシムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス

第三十條 刑期滿限ノ後賴ル可キ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得

第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前十時ヲ過ク可ラス

第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過クルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシム可シ

其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分ヲ過キサレハ埋葬若クハ下付スルヲ得ス

第三十三條 死刑者又ハ死亡者アル時ハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ木籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知ス可シ其監署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキ時ハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限ニ在ラス

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スル者ハ其品ヲ販賣シテ代價ヲ遞付スルヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス

若シ其物件又ハ代價ヲ受ク可キ者ナキ時ハ之ヲ沒收ス

第三十四條 在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ處分ス可シ但沒収ハ逃走ノ口ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分ス可シ

第三十五條 監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アル時ハ司獄官吏其形勢ヲ量リ在監人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シム可シ

○第三章 監獄ノ構造 (凡六條)

第三十六條 留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ集治監ハ適當ノ地ニ之ヲ置ク者トス

留置場監倉懲治場拘留場懲役場一區畫内ニ在ル者ハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ

第三十七條 未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ

甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交遞スルノ便ヲ得サラシム可シ各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス

第三十八條 密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシム可シ

開室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス

密室一間一室ハ一人ヲ限トス

第三十九條 接見室ハ監倉ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ縱横ノ格子ヲ嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄ニ倚ラシム可シ但懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障礙スルノ虞ナカラシム可シ

第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ牆壁ヲ以テ外見ヲ防ク可シ

◎第二編 (凡四章) (二十一條)

○第一章 役法附時限 (凡九條)

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌シ每四一日ノ科程ヲ定メテ服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十歳以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若クハ身體ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應シ作業ノ科程ヲ寬恕ス

若シ已ムヲ得ス外役ニ服セシムル時ハ鐵鎖ヲ用ヒテ二囚毎ニ聯絆シ笠ヲ用ヒテ (晴雨ヲ問ハ

ス)其面ヲ掩ハシム但外行ノ囚徒ハ一組十人以上十五人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム

外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサシムルヲ要ス

第四十三條 毎囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及ヒ看手點檢ヲ爲ス可シ歸監セシムル時モ亦同シ

第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日

一月二日

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月二十一日

第四十五條 囚徒ノ專習ス可キ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚徒ヲシテ之ヲ導カシム其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖_レ典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ生業ヲ計リ懺生又ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル未

決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フ時モ亦同シ

第四十七條 懲治人ニハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過キサル時間(休憩時間ヲ除ク)農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシム可シ

第四十八條 未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢_リ喫飯セシム又毎日一時間以内監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢_テ喫飯セシム其起床ヨリ約于一時間ヲ役ニ就カシメ午前一時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休憩ス飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得

起床還房及ヒ就役罷其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第五十條 科程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラズ罷役セシム

午飯ニ就カシムル際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視ス可シ若シ偷懶ニシテ怠役スル者ハ飯後ノ休憩ヲ許サス

○第二章 工役(凡七條)

第五十一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ科定シ之ヲ十分シ重罪

四ニハ其一分輕罪四ニハ其二分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム
定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決監ニ在ル者並ニ第十九條第一款ニ記載シタル懲治人ニシテ作業
スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ収メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ日當ノ科
程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢モ亦同シ

第五十二條 第十九條第二款ニ記載シタル懲治人ニシテ其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者ノ
工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルコト能ハサル者及ヒ第三十條ニ記載シタル者ハ工錢ノ内
ヨリ衣食費ヲ扣餘シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條 在監人ニ與フ可キ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人
ニ知ラシム可シ

第五十四條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シ一日若干錢ト定ム可
シ

第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ
物品及ヒ第六十九條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得

第五十六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルハ時第三十三條ノ例ニ照ラシ處分ス可シ

第五十七條 在監人若シ逃走シタルハ時已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒収ス未決者及懲治人ノ工錢ハ
其親屬ニ下付ス親屬無ケレハ之ヲ沒収ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル囚徒押送 (凡三條)

第五十八條 徒刑流刑及禁獄ノ刑ニ處セラレタル者アル時ハ其宣告書ノ謄書ヲ具シテ内務大
臣ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ集治監ニ押送ス可シ

北海道集治監ニ於テ管束ス可キ徒刑流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押送ス可
キ者トス

第五十九條 北海道ニ在ル集治監ハ毎歲三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押送シタ
ル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ル可シ

第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツ可シ遞船中ニ在テ
ハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ナシ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎 (凡二條)

第六十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其地ニ居住ス可キ家ナキ時ハ屋舎ヲ貸與ス
可シ

屋舎ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創置スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス

第六十二條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セン
ト請フ時ハ典獄將來營生ノ方法ヲ取糺シ之ヲ許否ス可シ

前項ノ請ヲ許ス時ハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戸長ニ通告ス可シ
其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスル時ハ監署ニ申告セシメ典獄之ヲ許否ス可シ

◎第三編 (凡五章)
二十五條

◎第一章 給與 (凡十二條)

第六十三條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者ハ
之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルヲ能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第六十五條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第六十六條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ
總テ長衣トス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番號ヲ墨書ス可シ

第六十七條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

一單衣 一衿 一綿入衣 一襦袢

就役服

一單短衣 一衿短衣 一綿入短衣 一襦袢 一股引

雜具

一蒲團 一蚊帳 一莞筵 一枕 一帶(長三尺)
一禪(長三尺) 一手巾 一篋 一笠

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條 在監人一人一日ノ食糧

一(下白米十分ノ四挽割麥十分ノ六) 七合 強キ力業ニ服スル者
一同 五合 輕キ力業ニ服スル者
一同 四合 工役ニ服セサル者及ヒ
一同 三合 滿十歳未滿以上ノ未決者
十歳未滿ノ幼者

一菜

金壹錢五厘以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルヲ得

第六十九條 工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フ可キ工錢ヲ得ル者及ヒ其幾倍ヲ得ル者等ニハ其請ニ

由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得但金三錢ヲ過クルヲ得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得但一日

金五錢ヲ過クルヲ得ス

第七十條 在監人日用ノ雜費(澣濯補綴又ハ炊用ノ薪炭其他一身ニ係ル日常諸費)ハ一人一日

金壹錢貳厘以下トス

第七十一條 監房常置ノ器具

一貯水器ニ飲器 木製

一唾壺 同

一便器 木製大小二種但監房ニ廁圍ノ接續スル者ニハ此器ヲ用ヒス

一小箒 草ノ種類ヲ以テ製作セシ軟カナ者

一洗手盥 木製

錄

附

第七十二條 浴湯ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條 已決囚及ヒ懲治人ノ髮ハ常ニ之ヲ短薙シ鬚鬣アル者ハ常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス

附

婦女ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種實ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澣ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ洒洗ス可ラス

○第二章 疾病 附死(凡五條)

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム

懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食又ハ溫ヲ取ル湯婆等ヲ用フルヲ要スル時ハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否ス可シ

錄

第七十七條 傳染病侵蔓ノ兆アル時ハ其消毒豫防ヲ愼密ニス可シ若シ在監人中傳染病者アル時ハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告ス可シ

第七十八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師并佐テ之ヲ驗屍ス可シ
未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者屍亡シタル時ハ之ヲ其裁判所ニ申報ス可シ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊第三十三條ニ記載シタル時限ヨリ二十四時以内ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フ時ハ之レヲ許シ其者ヲシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシム可シ
遺骸ヲ請フ親屬故舊ナキ時ハ棺ニ假葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツ可シ其標ハ約子而三寸長三尺五寸トス

○第三章 書信 (凡七條)

第八十條 已決囚其親屬故舊ニ書信ヲ贈ルハ六個月間ニ一次トシ一通ニ過クルヲ得ス但其他官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スル時又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官吏ニ於テ法律ニ觸ルヲナク且必用ト認メタル時ハ此限ニ在ラス

第八十一條 未決者ニ係ル書信ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經ルニ非レハ贈答セシムルヲ得ス

第八十二條 懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル書信ハ一個月一次トシ一通ニ過クル

ヲ得ス

第八十三條 在監人ノ發スル書信ハ典獄之ヲ檢閲ス可シ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意アル時ハ通信ヲ許サス

第八十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル書信ハ典獄之ヲ檢閲シ適正ノ事項ヲ陳ヘ又ハ選善ノ諭示ヲ主トシタル者ニ限り之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ル者ト認ル時ハ之ヲ付與セス

第八十五條 書信ヲ檢閲スルハ先ツ直行ヲ順讀シ次ニ逆讀斜讀或ハ橫讀シ嫌疑ノ文意アルヤ否ヲ詳査ス可シ

第八十六條 在監人ヨリ發スル書信ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其受領ス可キ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄署ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム

親屬故舊若シクハ辯護人ノ書信ハ監獄署ニ宛テ之ヲ差出サシム可シ

○第四章 接見 (凡二條)

第八十七條 在監人ニ接見セント請フ者アル時ハ典獄先ツ之ヲ面接シテ其氏族籍營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フ可キヲナキ時ハ之ヲ許シ看守長看

守竝在テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許サス
面會ノ時間ハ三十分ヲ過クルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタル時ハ直ニ之
ヲ停止ス

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前親屬故舊
其囚徒ニ面會セント請フ時ハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但シ面會時間ハ五十分時ヲ過ク
ルヲ得ス

○第五章 差入品 (凡三條)

第八十九條 未決者及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又飲食物(炊烹ヲ要セザ
ル者ニシテ一人一食ノ量ニ限ル)贈ラント請フ時ハ之ヲ許ス但酒又煙草其他攝生ニ害アル者
ハ此限ニ在ラス

第九十條 已決囚ニハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サス

第九十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服夜具等ノ寄贈ヲ受タ
ル時ハ其旨ヲ典獄ニ申告セシム可シ

○第四編 (凡三章)

○第一章 教誨 (凡四條)

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後ニ於テ其講席ヲ開クモノトス

第九十四條 懲治人ニハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖書等ノ科目中ニ就テ之ヲ教フ可キ
者トス

學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシノ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒業ノ科目
學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閲ニ供シ又ハ其尊屬親ニ
示スコアル可シ

第九十五條 各監房内ニ在ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシム可シ若シ文字ヲ識ラ
サル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カス可シ

揭示

一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守ス可シ

一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就ク時ハ慎テ容止ヲ正フス可シ(未決監ニハ此款
ヲ除ク)

附

錄

- 一 每朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ
- 一 毎朝常用ノ諸器具清潔ニシテ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁厠ヲ掃除ス可シ
- 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外へ唾キ貯水ヲ濫用スルヲ禁ス
- 一 監外ニ出テタル時其途上ニ於テ全往ノ者ト交談シ及手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スルヲ禁ス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起少スルヲ禁ス但晝間ト雖モ放歌喧嘩又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ又ハ勝負ヲ競ヒ若クハ賭博類似ノ惡戯ヲ爲シ或ハ同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス
- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス〔未決監ニハ此款ヲ除ク〕
- 一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲ス可シ
- 一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルニ非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フ可キ者トス若シ劇症ナルモハ直ニ看守所ニ通聲ス可シ

附

錄

- 一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタル時ハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ響器繩ヲ引キ以テ之ヲ報ス可シ
- 一 病者アル時ハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致ス可キハ勿論其看病人タラシムル者ハ切實ニ之ヲ看病ス可シ
- 一 水火風震等ノ際解放ニ遭フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツ可シ
- 右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ學ケサル者ハ其情狀ヲ量リ處分ス可キ者ナリ

某監獄所

○第二章 賞譽 (九七條)

第九十六條 已決囚獄則テ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スル時ハ之ヲ賞譽スヘシ

第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖(肩臂間ノ表面)ニ方ニ寸曲尺)ノ淺葱色ノ布ヲ縫着ス可シ

第九十八條 賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スヲ得

第九十九條 賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次親屬故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第一百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕得シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救
援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必用品又ハ
食物ヲ購求ス可シ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第一百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞働アル時ハ之ヲ錄シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供ス可
シ

第一百二條 懲治人第一百條ニ適シタル勞働アルルハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ
與フ可シ

○第三章 懲罰 (九十一條)

第一百三條 已決囚獄則チ犯ス時ハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ
役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ盪湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四 關室 關室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ盪湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ
禁ス

第一百四條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食關室ハ七晝夜ヲ限トス

減食關室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキ時ハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルヲ得

第一百五條 懲治人及ヒ十六歲未滿ノ已決囚獄則チ犯ス時ハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處ス

一 獨慎 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以內ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第一百六條 獨慎ハ七晝夜以內減食ハ三日以內トス

第一百七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者教令ニ順ハス或ハ同監ノ者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規
則ヲ犯ス時ハ所犯ノ輕重ヲ量リ第一百二條第一百五條ニ準擬シ減食スルヲ得

第一百八條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受タル時ハ賞表一個又ハ數箇ヲ褫奪ス

第一百九條 無期徒刑ノ囚徒逃走シ若クハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シ其他重罪輕罪
ヲ犯シタル時ハ三月以上五年以下兩脚又ハ一脚ニ鈇ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鈇ニ

貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ所ニ下鍵ス但監房ニ在ルモ晝間ハ之ヲ施ス者トス
 若シ再ヒ重罪ヲ犯シタル時ハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス
 鐵丸ノ量ハ二百目以上二貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬シ地上ヲ
 轉ハス者トス其外役ニ服スル時ハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ
 第一百十條 減食或ハ閤室ノ罰ニ處ス可キ者アル時ハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキ時ヲ
 証シテ後之ヲ行フ可シ
 第一百十一條 屏禁減食閤室又ハ獨慎ノ罰ニ處シタル後ハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ觀察
 シ狀況ニ由リ醫師及ヒ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムルヲアルヘシ
 第一百十二條 罰則ニ處セラレタル者改悛ノ狀著ル、時ハ之ヲ免スルヲ得
 第一百十三條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタル時ハ七日以下之ヲ
 拘置スルヲ得

〔典獄(檢印)〕〔懲治人名籍〕

主檢 書記〔氏名印〕

〔横線以下朱書〕

本出生	國郡(町村)番地住前某(男弟女妹) 何國郡(町村)産 族 籍 何 籍 某
氏名	某年 某月 某日 生 當何年何月何年何ヶ月
年及ヒ	懲治人ノ營業 主願者タル尊屬親ノ營業
親屬	父母兄弟及ヒ配偶者等ノ有無
入場ノ年月日	明治何年月日午(前後)第何時入場
入場ノ事狀	
身材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
容貌音聲	面帶眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、癩 子、瘰癧、黒痣、癩瘋、天皰、創癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細織 ニ具載ス

入場中ノ賞罰	入場ノ時文字ヲ知ルヤ否或ハ讀書ヲ爲スヲ得或ハ善ク讀書ヲ爲ス 入場後進學ノ景況 何宗或ハ宗門不詳
書信贈答ノ月日	何年何月日何國郡(町村)住親屬若クハ朋友ニ書信(發來)
懲治場ニ留置ノ宣告ヲ爲セシ裁判所	明治何年何月何日某裁判所ニ於テ若干年月日留置ノ宣告
曩ニ處斷テ經シ者ナル時ハ其事由	犯由ノ大略及ヒ某裁判所
事變	明治何年何月日病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移ス
放還	明治何年何月日某家ニ放還
〔典獄(檢印)〕未決者名籍	主檢 書記(氏名印)
本出生	〔横線以下朱書〕 某管下國郡(町村)番地住又ハ何某子弟妻女 何國郡(町村)産 族 籍 何 某 某年 月 日 生 某年何月何年何ヶ月

營業及ヒ親屬	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無
乳兒提携	男或ハ女 收監ノ時何歳何ヶ月
入監ノ年月日時及ヒ事件	明治何年月日午(前後)第何時入監何罪ヲ犯ス
身材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
容貌音聲	面體眉毛耳目鼻口 形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、癩子、瘰癧、黒痣、癩風、天癬、創癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細織ニ具載ス
教育及ヒ宗門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲ爲スヲ得或ハ善ク讀書ヲ爲ス 何宗或ハ宗門不詳
入監中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ
書信ノ贈答ヲ許ス月日	明治何年月日何國郡(町村)住親屬若クハ朋友ニ書信(發來)
當該官ノ氏名	裁判長ノ氏名死刑ハ裁判長ノ外其行刑ヲ臨監セシ官吏ノ氏名
保釋責付	明治何年月日保釋若クハ責付

事	明治何年月日病死或ハ變化或ハ脱監
終	明治何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行又ハ他監押送
〔典獄(檢印)〕已決囚名籍	
〔横線以下朱書〕	
本出生	某管下國郡(町村)番地住又ハ何某子弟妻女
氏族	何國郡(町村)産 何籍
年	某年 月 日 生
營業及ヒ親屬	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無 男若クハ女叔蓋ノ時何故何ヶ月 父母ニ先チテ出監シ或ハ死去シタル時ハ之ヲ詳記ス
乳兒提携	何刑若キ年月日
刑名及ヒ宣告ノ月日裁判所ノ名稱	明治何年月日何 裁判所ニ於テ宣告
收監ノ年月日	明治何年月日午(前後)第何時入監
犯由ノ大略	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス若シ再三 犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ其裁判所ニ於テ何刑ニ處セラレ

身	材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
容貌音聲	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ白四肢ノ姿態其他痘斑、癩子、瘰癧、黒痣、癩風、天皰、創癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細織ニ具載ス	
教育及ヒ宗門	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲ爲スヲ得或ハ善ク讀書ヲ爲ス何宗或ハ宗門不詳	
入監中ノ賞罰	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	
書信贈答ノ年月日	明治何年月日何國郡(町村)住親屬若クハ朋友ニ書信(發來)	
假出獄免幽閉	明治何年月日何日假出獄或ハ免幽閉	
事	變	明治何年月日病死或ハ變化或ハ脱監或ハ何罪ヲ犯シ復タ未決監ニ入ル
終	結	明治何年月日滿期放免又ハ特赦

假出獄ノ證票

某管下國郡町番地住又ハ何某子弟妻女

族 籍

何 某

何 年 月 日 生

明治何年何月何年何ヶ月

身 材

名籍ノ様本ニ倣ヒ詳記ス可シ

容 貌

上ニ同シ

罪 質 犯 數

刑 名 刑 期

及 ヒ 附 加 刑

何年月日何裁判所ニ於テ宣告ヲ受
ケ何年月日ヨリ執行何年月日滿期

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住ス可キ何地ヘ約

子何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住宅ヲ定ム可キ旨

申渡シタル事

一此者ハ本刑期限間特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スアアル時ハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ

算入セラレサル事

一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滯留スル時ハ滯留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住

地ニ到着ノ上此證書ト共ニ居住地ノ警察官ニ差出ス可キ旨申渡シタル事

右之通心得サセ假出獄ノ證票與フル者也

某監獄署

明治何年何月

長官何某

署 日 印

印

△假出獄ヲ受タル者所有金アル時ハ此證書ノ裏面若クハ欄内ニ左ノ二款ヲ附記ス
可シ

一此者ノ所有金ハ當監署ヨリ其居住ス可キ地ノ警察官ニ送リ遣シタル事

一警察官ヘ送リ遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何日ニテモ受取得可シト雖モ同官ニ

於テ正當ノ入用ナリト認定ノ上ニ非レハ一次ニ之ヲ渡サ、ル可キ事

月名	時限	起床	就役	小憩	午飯	罷役	晩飯	還房	服役計
一月	午前七時〇二分	午前八時〇二分	午前第十時	正午十二時	午後三時三十分	一時二十分	午後四時五十八分	六時二十分	
二月	六時三十分	七時三十分	第十時五分	十二時	三時五十分	一時三十分	五時二十分	六時五十分	
三月	六時〇六分	七時〇六分	全上	全上	四時	一時五十分	九時五十分	七時三十分	
四月	五時三十分	六時三十分	第九時四分	全上	四時三十分	一時五十分	六時二十分	八時三十分	
五月	五時〇一分	六時〇一分	第九時三十分	十二時	五時	一時五十分	六時五十分	八時五十分	
六月	四時四十分	五時四十分	全上	十二時	五時二十分	一時五十分	七時十四分	九時〇五分	

囚徒服役時限表

日月年治明○紙信書人監在○署獄監〔某下管何〕

一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫ス可シ
 一書信ノ文句規則ニ背キタルコトアル時ハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルコトアル可シ

リ日々分	秒ニ差刻	リ加東	國西國	別此ニ	由テ何	地方ニ於	差異ナキ	保能ハス	故三月毎	大均シテ	平均シテ	時刻ヲ登	職ノ各地	司獄官此	表ノ區分	準トシテ	裁酌シテ	役囚ヲ適	ス可シ

	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
分四時五十分	分五時十六分	分五時四十分	分六時二十七分	分六時五十七分	分七時零八分	分七時零八分
一分五時五十分	一分六時十六分	一分六時四十分	一分七時二十七分	一分七時五十七分	一分八時零八分	一分八時零八分
全	全	全	全	全	全	全
上	上	上	上	上	上	上
全	全	全	全	全	全	全
上	上	上	上	上	上	上
五時十分	四時五十分	四時五十分	三時四十分	三時二十分	三時二十分	三時二十分
一分五十七分	一分五十分	一分五十分	一分四十分	一分四十分	一分三十分	一分三十分
七分〇九分	六時四十分	六時四十分	五時三十分	五時〇八分	四時五十分	四時五十分
八時四十分	八時〇四分	八時十二分	七時〇三分	六時十三分	六時十二分	六時十二分

約キ日出ノ時刻ヲ以テ起床ノ時刻ト爲ス然レニ年々季節ニ早晩アリ

右ノ時間約子日没ニシテ工ノ時刻ヲ及ヒ併理以テ入監シ及ヒ餐ノ時刻ト爲ス

サシム

表

大 審 院											
同											
浦和		朽木		水戸			千葉				
熊谷		宇都宮		下妻	土浦	水戸	八日市	木更津	千葉		
大宮		宇都宮		下妻	土浦	水戸	八日市	木更津	千葉		
埼玉縣		栃木縣		茨城縣			千葉縣				
武藏		下野		常陸	常陸	常陸	上總	上總	上總		
秩父		河内 芳賀 嬭谷 那須		眞壁 猿島 結城 岡田 豐田 西葛飾	北相馬 新治 筑波 河内 信太 行方 鹿島ノ内	(東西)茨城 那珂 久慈 多賀 鹿島ノ内	山邊 武射 匝瑳	海上 香取 匝瑳	全國四郡	天羽 周准 望陀	上植生 千葉 印旛 南相馬 東葛飾
北埼玉 比企 男衾 横見 大里 榛澤 旆		中葛飾 北足立 新庄 入間 高麗 南埼玉 北葛飾		(上下)足賀 寒川 安蘇 築田 都利							
羅 兒玉 賀美 那賀											

大 審 院										控 訴			
所 判 裁 訴 控 京 東										本 廳 支 廳			
橫濱					東京					治 安 府 縣 國 名			
八王子		小田原		橫濱		本所區		下谷區		芝區		京橋區	
縣 神奈川					東京府 武藏								
武藏 相模		相模		武藏 相模									
津久井		足柄上 足柄下 大住 陶綾 愛甲		三浦 鎌倉 高坐		橫濱區 久良岐 橘樹 都築		本所區 深川區 南葛飾		神田區 下谷區 淺草區 南足立 北豐島		南豐島 四谷區 牛込區 小石川區 本郷區	
										芝區 麻布區 赤坂區 荏原 東多摩		日本橋區 京橋區	

○各裁判所ノ位置及管轄區畫表

大 審 院																	
同																	
新潟				長野													
相川	高田	長岡	田新發	上田		松本											
相川	糸魚川	高田	六日町	柏崎	長岡	新上	新田	岩村田	上田	福島	大田	上諏訪	飯田	松本	飯山	長野	
新潟縣				長野縣													
佐渡		越後															
全國三郡		西頸城		(東中)頸城		(南中)魚沼		刈羽ノ内		古志		北魚沼		三島		刈羽ノ内	
								新瀛區 (西中南)蒲原		北蒲原		岩船					
								南北 佐久		小縣 埴科ノ内		更級ノ内					
										東筑摩ノ内 (南北)安曇ノ内		西筑摩ノ内		上伊奈ノ内		下伊奈ノ内	
										上伊奈ノ内		下伊奈		(東西)筑摩ノ内 (南北)安曇ノ内		上伊奈ノ内	
										下高井		上水内ノ内		下水内		上水内ノ内	
										上水内ノ内		上高井		更級ノ内		埴科ノ内	

大 審 院																							
同																							
甲府		静岡					前橋																
		遠江																					
谷村	甲府	掛川	濱松	沼津	下田	静岡	太田	高崎	前橋														
山梨縣		静岡縣					群馬縣																
甲斐		遠江			伊豆	駿河	上野																
(南北)都留		(東西)山梨 (南中北)巨摩		山名 周智 城東 佐野 榛原		豐田 磐田 長上 敷知 引佐 鹿玉 濱名		那加 加茂ノ内		駿東 富士		君澤 由方 加茂ノ内		新田 山田 邑樂		馬ノ内 猪野川以西		碓氷 (南北)甘樂 片岡 綠野 多胡 西群		妻 西群馬ノ内 猪野川以東		東群馬 (南北)勢多 佐位 那波 利根 吾	

大審院											
同											
福井			大津		岡山			神戸			
小濱			彦根		津山		豐岡	姫路	洲本		
敦賀	小濱	大野	彦根	大津	津山	高島	岡山	豐岡	姫路	洲本	明石
福井縣			滋賀縣		岡山縣			兵庫縣			
若狹	越前	若狹	近江		美作	備前	備前	備前	播磨	淡路	丹波
三方	敦賀	大野	南條	神崎	滋賀	上房	小田	岡山	佐用	多可	明石
	大飯	今立	今立	愛知	野州	河賀	後月	加陽	穴栗	加西	美霧
		丹生	丹生	犬上	甲賀	哲多	下道	加陽	楫西	印南	八部
		坂井	坂井	坂田	栗田	川上	窪屋	加陽	楯東	神東	武庫
		足羽	足羽	伊香	蒲生	加陽	淺口	加陽	赤穂	神西	川邊
				(東西)淺井	高島				加東	飾東	有馬
									加古	飾西	

大審院											
大坂控訴裁判所											
大坂						京都					
奈良						宮津					
五條	奈良	堺	天王寺	中ノ島	宮津	福知山	園部	伏見	京都	治安府縣	國名
大坂府						京都府					
大和	河内	和泉	攝津	河内	攝津	丹波	丹波	丹波	山城	郡區名	
宇智	廣瀨	添上	安宿	高安	西區	熊野	加佐	天田	船井	乙訓	(上下)京區
吉野	宇陀	添下	丹南	志紀	交野	竹野	加佐	何鹿	(南北)桑田	紀伊	愛宕
葛上	高市	山邊	丹北	丹北	茨田	中興謝	加佐			久世	葛野
忍海	高市	平群	大川	丹北	島上	島上				相樂	宇治
高市	高市	式上	石川	大和	島下	島下				綴喜	宇治
高市	高市	式下	錦部	大和	豐島	豐島				宇治	宇治
高市	高市	十市	志紀	大和	能勢	能勢				宇治	宇治
高市	高市			大和						宇治	宇治

大 審 院										訴 控	
所 判 裁 訴 控 屋 古 名											
岐阜		安濃津			名古屋					本廳支廳	始審
岐阜		山田	上野	安濃津	四日市	豐橋	岡崎	一宮	熱田		
岐阜縣		三重縣			愛知縣					治安府縣	國名
飛騨	美濃	紀伊	志摩	伊勢	伊賀	三河	尾張				
全國三郡		多氣度會			丹羽 葉栗 中島					區 郡 名	
海西(上下)石津 多藝 不破 本巢 席田		全國三郡			額田 碧海 幡豆 東西 加茂						
安八 池田 大野		全國三郡			八名 南北 設樂 寶飯 渥美					內	名古屋區 東西春日井 海東 海西 愛知ノ
加茂 可兒 土岐 惠那		全國三郡			河曲 鈴鹿 奄藝 安濃 飯高 一志 飯野						

大 審 院										訴 控		
同												
松山		高知			金澤					本廳支廳	始審	
高松	宇和	大洲	四條	松山	中村	高知	德島	和歌山	富山			
丸龜	高松	宇和島	大洲	四條	松山	中村	高知	德島	和歌山	富山	小松	金澤
愛媛縣		高知縣			石川縣					治安府縣	國名	
讚岐	伊豫	土佐	阿波	紀伊	能登	越中	加賀	越中	加賀			
那珂 多度 三野 豐田 鵜足 阿野ノ内		野間 糸風 早(上下)浮穴 和氣 伊豫 溫泉			日高 (東西) 幸農					區 郡 名		
大内 寒川 三木 山田 香川 小豆 阿野ノ内		宇摩 新居 周布 桑村 越智			和歌山區 伊都 那賀 名草 海部 有山							
喜多 西字和		播多			美馬 三好 麻植 阿波					內	金澤區 河北 石川	
(東南北) 宇和		安藝 香美 長岡 土佐 吾川 高岡			鹿島 羽咋							
那珂 多度 三野 豐田 鵜足 阿野ノ内		野間 糸風 早(上下)浮穴 和氣 伊豫 溫泉			珠洲 鳳至					區 郡 名		
大内 寒川 三木 山田 香川 小豆 阿野ノ内		宇摩 新居 周布 桑村 越智			射水							
喜多 西字和		播多			下新川 婦負					內	金澤區 河北 石川	
(東南北) 宇和		安藝 香美 長岡 土佐 吾川 高岡			上野川 婦負							

大 審 院												控訴	
廣 島 控 訴 裁 判 所												始審	
鳥取			松江			山口			廣島			本廳支廳	
米子	鳥取	島取	西郷	濱田	今市	松江	赤間	岩國	山口	尾道	三次	廣島	治安府
米子	鳥取	島取	西郷	濱田	今市	松江	赤間	岩國	山口	尾道	三次	廣島	治安府
鳥取縣			松江縣			山口縣			廣島縣			國名	
伯耆	伯耆	因幡	總岐	石見	石見	出雲	出雲	長門	周防	備後	備後	安藝	安藝
汗入	會見	八橋	日野	全國八郡一	河村久米	全國四郡	邦賀邑智	瀨摩	美濃	鹿足	赤間關	厚俠	豐浦
大津	阿武	見島	大原	意字	能義	秋鹿	嶋根	多仁	神門	出雲	糖縱	飯石	安濃
美禰	佐波	吉敷	備前	備前	備前	備前	備前	備前	備前	備前	備前	備前	備前
高田	三上	三次	高田	三上	三次	高田	三上	三次	高田	三上	三次	高田	三上
廣島區	沼田	安藝	佐伯	山縣	高宮	加	廣島區	沼田	安藝	佐伯	山縣	高宮	加

大 審 院												控訴		
長 崎 控 訴 裁 判 所												始審		
大分			福岡			長崎			本廳支廳			治安府		
中津	中津	杵築	竹内	佐賀	大分	小倉	久留米	福岡	藤原	佐賀	福江	平戸	嶋原	長崎
中津	杵築	竹内	佐賀	大分	小倉	久留米	福岡	藤原	佐賀	福江	平戸	嶋原	長崎	治安府
大分縣			福岡縣			長崎縣			國名			區 郡 名		
豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	對馬	肥前	壹岐	肥前	肥前	長崎區	北高來
豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	對馬	肥前	壹岐	肥前	肥前	長崎區	北高來
玖珠	日田	下毛	宇佐	直入	大野ノ内	南海部	北海部ノ内	大野ノ内	速見ノ内	大分	北海部ノ内	大野ノ内	速見ノ内	長崎區
豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	對馬	肥前	壹岐	肥前	肥前	長崎區	北高來
豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	對馬	肥前	壹岐	肥前	肥前	長崎區	北高來
豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	對馬	肥前	壹岐	肥前	肥前	長崎區	北高來
豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	對馬	肥前	壹岐	肥前	肥前	長崎區	北高來
豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	豐後	豐前	對馬	肥前	壹岐	肥前	肥前	長崎區	北高來

大 審 院												
弘 前 控 訴 裁 判 所											控訴	
函 籍						弘 前				本 廳	始 審	
						八 戸					支 廳	
壽 都	福 山	江 刺	西 館	八 戸	河 原	五 所	青 森	弘 前	治 安 府 縣 國 名			
函 籍 縣						青 森 縣						
後 志	渡 嶋	後 志	渡 嶋	膽 振	陸 奥							
嶋 牧	壽 都	歌 乘	磯 谷	松 前	久 遠	太 檜	瀬 棚	奥 尻	區 郡 名			
				函 館 區	龜 田	上 磯	第 部					
				山 越								
				三 戸	上 北ノ内							
				北 津 輕								
				東 津 下 北 上 北ノ内								
				(西 中 南) 津 輕								

大 審 院											
同											
秋 田			盛 岡			山 形					
			磐 井			酒 田			米 澤		
能 代	大 曲	本 庄	秋 田	磐 井	宮 古	盛 岡	酒 田	米 澤	新 庄	山 形	
秋 田 縣			山 形 縣			山 形 縣					
陸 中	羽 後	羽 後	陸 前	陸 中	陸 中	陸 奥	羽 後	羽 前	羽 前		
鹿 角	山 本	北 秋 田	川 邊	南 秋 田	由 利	仙 北	平 鹿	雄 勝	(東 南 西 北) 村 山		
			氣 位			(東 西) 磐 井			膽 澤		
			(東 南 中 北) 閉 伊			貫 (東 西) 和 賀			最 上		
			二 戸			(南 北) 九 戸			西 閉 伊		
						南 北) 岩 手			紫 波		
						二 戸			稗		
						鶴 海			(東 西) 田 川		
									(東 西 南) 置 賜		

附 錄 大 尾	大 密 院									
	同									
	根室					札幌				
	厚岸	根室		岩内	小樽	増毛	浦川	札幌		
	根室縣					札幌縣				
	釧路	北見	千嶋	根室		後志	北見	天鹽	日高	十勝
全國七郡	斜里	網走	常呂	紋別	古宇	岩内	小樽	岩内	宗谷	技幸
					美國	積丹	高嶋	忍路	古平	
										札幌區
										全國九郡
										幌別
										勇拂
										白老
										千歲

版權登錄

明治二十二年一月廿日印刷
明治二十二年二月廿五日出版

定價金五拾錢

發解 行釋 者兼

西村 富次郎

東京府平民

東京々橋區大鋸町四番地

東京府平民

印刷者

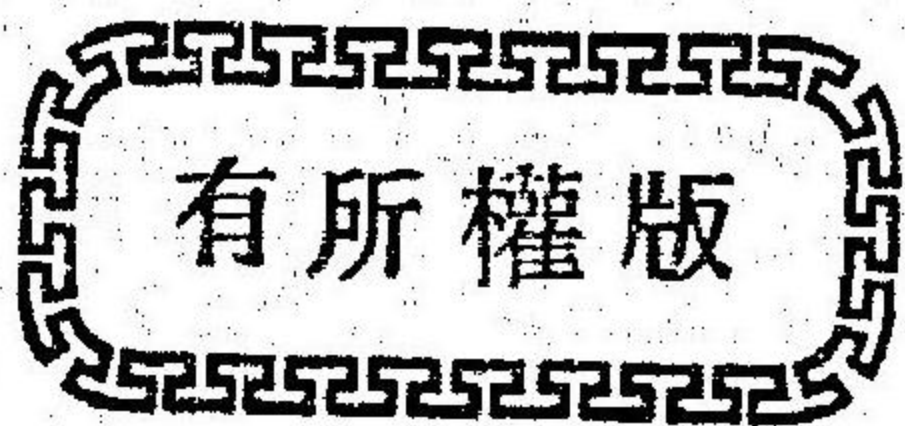
加藤 二郎

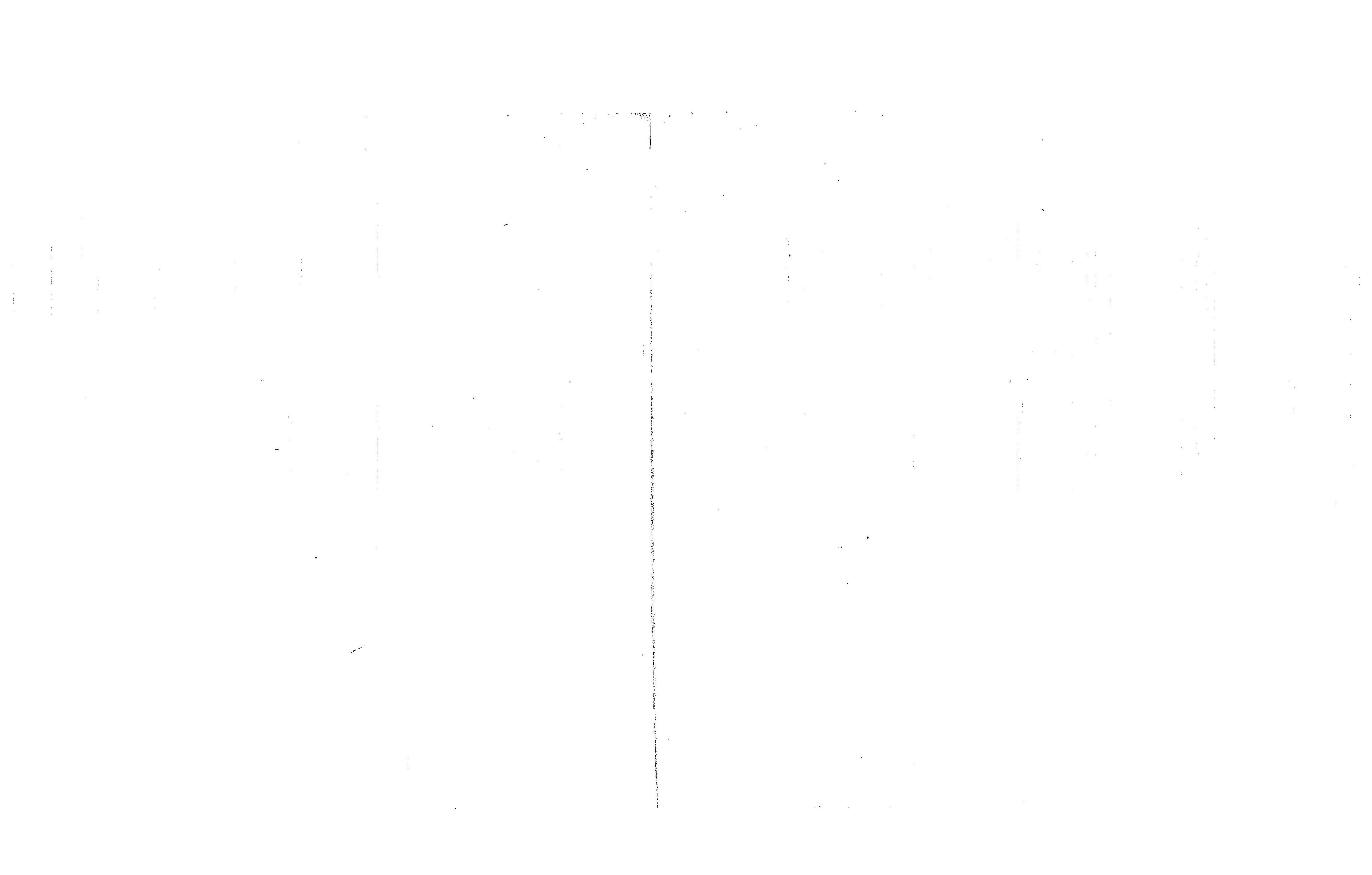
東京府總町區平河町五丁目
三番地文旋社

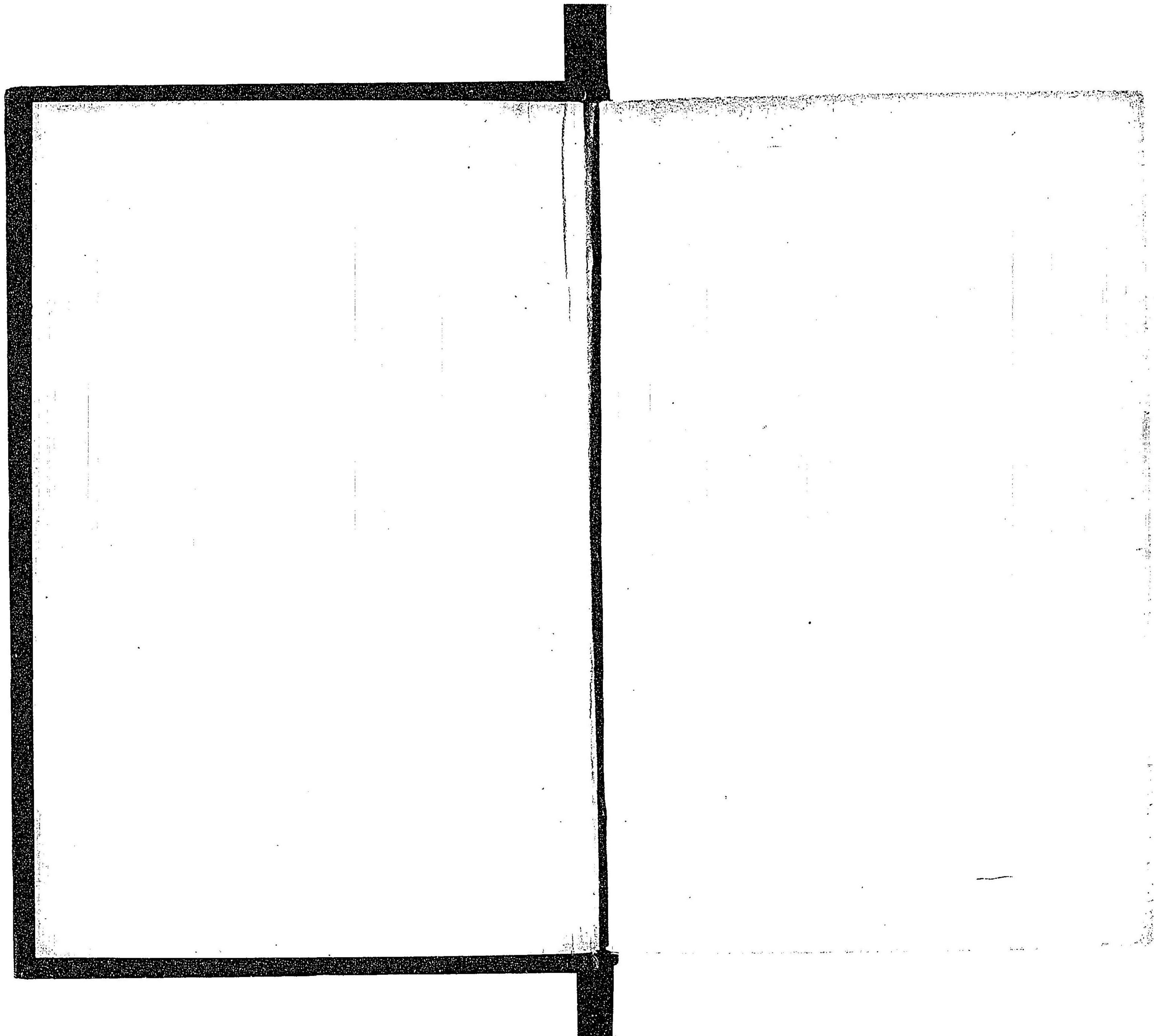
發兌元

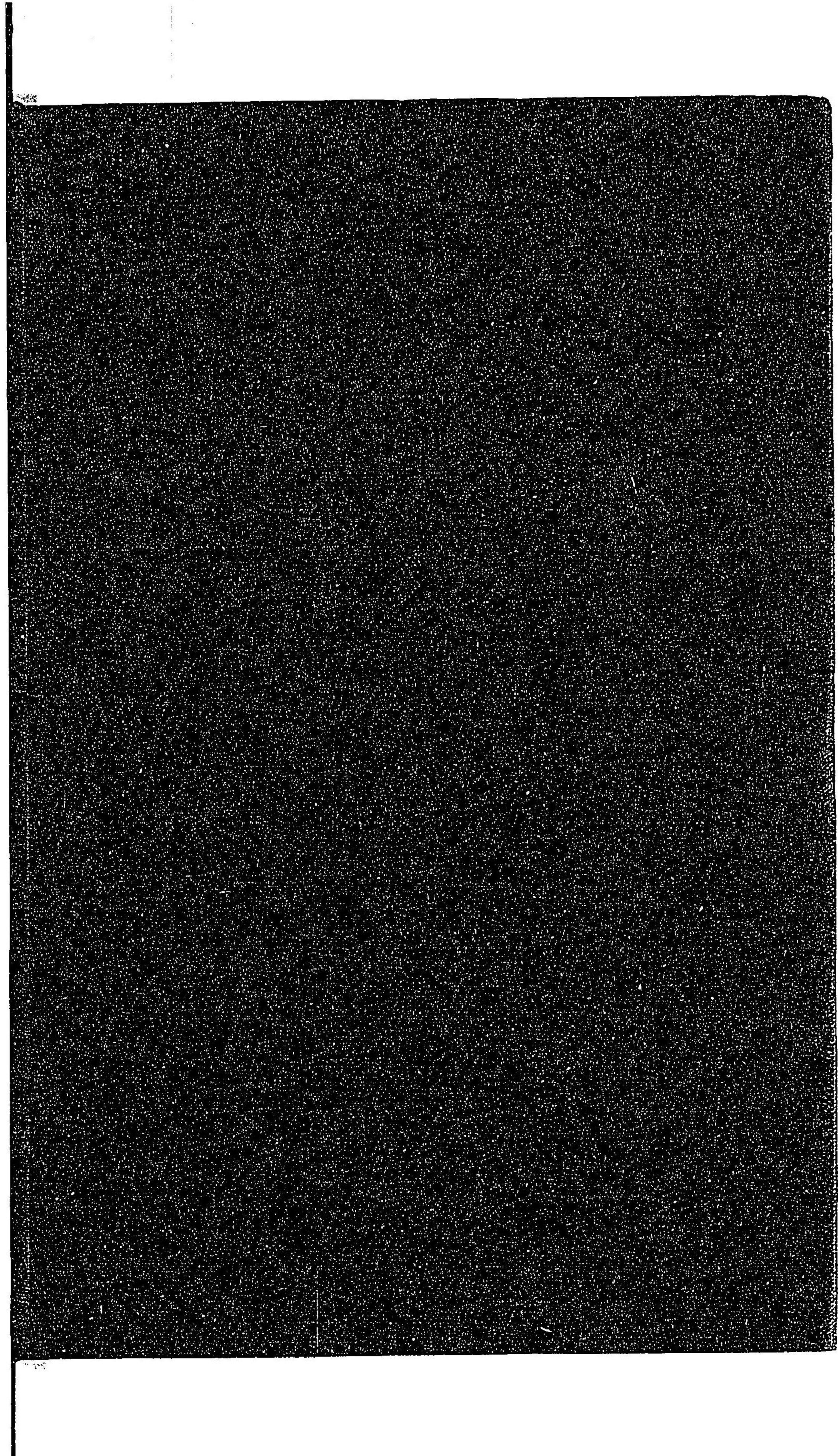
自由閣

東京々橋區大鋸町四番地









035837-000-5

特15-502

刑法治罪法解釈(訂正増補)

西村 富次郎/著

M22

BBP-0423

